DESCENTE

生存のすべてを託す、一球のシュートもある。

スポーツマンたちは激しい練習に耐える。それは満足のいくプレーを行うためである。
自らが描いたイメージを、自らの肉体によって実現することが、
彼らの目標であり、彼らのよろこびでもある。
それが無為な行為だとしたら、ロマンと呼んでいいかも知れない。
それこそが、スポーツマンたちの生活そのものであるから。
「アディダス」ハンドボールウェアは、最新の機能で彼らのロマンに応えます。

昭和60年度日本協会各委員会紹介

[企画委員会]
○委員長　北川勇喜
○委　員　青木　徹
　　　　　池田和男
　　　　　樋口利郎

[広報委員会]
○委員長　川上整司
○委　員　佐々木正徳
　　　　　氷海正行

[機関誌委員会]
○委員長　川上整司
○委　員　佐々木正徳
　　　　　鴨門義夫

[競技用具委員会]
○委員長　安藤純光
○委　員　岡前義春
　　　　　高田日呂美

[競技委員会]
○委員長　安藤純光
○委　員　伊藤和夫
　　　　　清水　正
　　　　　村田　弘
　　　　　岡前義春

[指導者養成委員会]
○委員長　大西武三
○副委員長　本田娟一
○委　員　設楽孝治
　　　　　北井晴次
　　　　　飯田信行
　　　　　松本正昭
　　　　　一宮昌平
　　　　　水上　一
　　　　　岡本研二
　　　　　浅野鉦世
　　　　　村松　誠
　　　　　笹倉清則

[クラブ委員会]
○委員長　中沢重夫
○委　員
北海道　松喜美夫
東　北　千田文彦
関　東　村田　稔
北信越　藤井　勉
東　海　飼沼守男
近　畿　清水哲哉
中　国　明石英利
四　国　佐藤利広
九　州　末次　功
推　薦　望月　孝
　　　　山中善之祐
　　　　宮原　修
　　　　石河広安
　　　　田島　静

[審判部委員会]
○審判部長　岡前義春
○審査委員長　入江信太郎
○審査委員　藤田八郎
　　　　　佐野和夫
　　　　　岡本克彰
　　　　　狩野幸介
　　　　　佐分正典
○北海道部長　新橋満
○東北部長　由利　弘
○北信越部長　加藤雅之
○関東部長　斎藤　実
○東海部長　吉田　元
○近畿部長　藤本　昇
○中国部長　東　昌弘
○四国部長　真木　崇
○九州部長　日野　博
○実連部長　近藤金博
○教職連部長　柳井文治
○学連部長　藤田信義
○高校連部長　金原至
▽ルール研究委員
○岡前義春（審判部長）
○大塚文雄（審判副部長）
○上久保重次
○後藤　登
○原　信雄
○島田房二
○清水宣雄
○浜田浩和

[強化部委員会]
○部長　渡辺慶寿（男子委員長）
○委員　近藤金博（女子委員長）
　　　　野田　清　鈴木義男
　　　　本田　洋　水上　一
　　　　市原則之　笹倉清則
　　　　新井節男　池田鉄哉
　　　　北山　隆
　　　　宍倉保雄
　　　　井　薫

財務担当常務理事として

山田　稔

財務担当常務理事を受けて2期目になります。協会財政は、オリンピック予選の日本開催の財政面での無理が尾を引いて、昭和59年度も苦しい年でありましたが、何とか専務理事以下役員諸氏の努力により切り抜けることが出来ました。

昭和60年度も引き続き財政面では大変な年であります。また、本格的にこの面での協会財政の確立と安定した運営をどうしても本年は実行しなければならない年であります。

基本的には、積極財政をとりながら無理無駄をさけ、協会運営の合理化を更に進めて、早く余裕のある経理面での運営が出来る様一段の努力が必要であろうと考えられます。具体的には、収入をいかに増やすか。登録金、事業収入、寄付金（賛助会も含む）と限定されている現状のうち、事業収入のオフィシャルサプライヤー制度、特に協会公認の品目を増やし、協会財政に寄与出来る様に努力する。

一方、物品販売も無駄の出ない様十分注意して直接協会財政が潤う様にチェックする。そして、財源プロジェクト委員会との連携のもとに、賛助会員制度の拡充により安定した寄付金を得られる様重点目標としたい。

一方支出面では、強化委員会との連絡を十分とってトップ強化に最も効率的に資金を応援して成果を期待したい。同時に、世界レベルの審判員の養成も大切な問題で、この面での支援も積極的にやりたい。この二つは、やはり最も多額な金額が動くので各方面との連絡をとって有効適切な処置が必要と考えます。

一面低辺の充実が将来に対する主要課題で、この面にも指導普及委員会との関連のもとで活動的に資金も出して前進する必要があると考えます。

勿論ＰＲ面は当協会が最も遅れている分野で、マスコミ対策にも費用を出してでも力を入れることが普及面に力になることの認識のもとに企画委員会と連絡をとってこの面に一段と努力をしたいと考えます。

以上基本的な財務委員会の抱負を述べましたが、要はこれを実行に移す為には各役員が十分連絡をとり、十分協議して積極的な財源も慎重に取り組み貴重な財源を最大限活用するため努力したいと考えますので、各位の絶大なるご協力をお願いします。

日中国際親善大会

全日本男子 デビュー戦飾れず

▼第1戦（5月3日／代々木第1体育館）

日本19（8—6 / 11—13）19中国

得	〔中国〕		〔日本〕	得
0	閃碩	GK	井藤	0
0	虞偉		西山	5
1	白義順	FP	藤井	3
0	韋和平		高村	2
1	薛満倉		立木	1
4	江山明		玉村	4
7	趙志偉		田口勝	4
2	徐旭波		田口隆	0
4	翟文明		荷川取	0
0	胡衛東		山本	0
19	(1)	PT	(3)	19

（審・上久保、北井）

ロサンゼルス・オリンピック後思い切った若返りを計った全日本男子チームのデビュー戦である。その"若さ"がどのように発揮されるか、期待と不安の入り混った気持で立ち上がりを迎えた。

前半の立ち上がり、両チームとも十分気迫は感じられるのだが、やはり緊張感からか、動きはぎこちなく、パスミス、キャッチミスが目立つ出足。

そうした中で先手を取ったのは日本だった。相手スローオフからの攻撃をGK・井藤がとめると素速い攻めを見せてPTを得る。これを玉村が決めてまず1—0。しかし、中国もその後すぐに、徐がきれいにポストから決めて追いつく。だが、その後は日本のペース。藤井の速攻、西山のミドル、田口勝のロングなどで4点を連取、6分過ぎには5—1とリード。このあたり、日本のディフェンスの足がよく動き、中国の攻撃をしっかりと止めて、守りから攻めへの展開が成功していた。

しかし、ここから中国も落ち着きを見せ、速い戻りからディフェンスを固められると、日本はセットから思うような攻撃展開が出来ず、実に10分近く無得点。中国がじりじりと追い上げ5—3に。ここで西山が頑張りを見せ、ロング、速攻と2点連取、再び7—3と突き放したが、中国もGKが相手PTを止めるなどの好守を見せ、しぶとく反撃、結局8—6と日本の2点リードで前半を終了。

後半も先手を取ったのは日本。田口勝、高村が中央からのロングを決めて10—6。このあたり、この試合はもう大丈夫という感じだったのだが、その後がいけない。4分に趙のスタンディングシュートを決められると、日本側にミスが目立ち始め、相手の速攻を受け、10分には13—11。そして、15分には遂に14—14と追いつかれた。

ここで中国は、後半大活躍を見せていた趙が2分退場。しかし、1人足りない中国が、日本のキャッチミスに乗じて速攻を決め、15—14と逆転、この試合初のリードを奪った。その後日本が再び3点を連取、17—15と再逆転。ところが、今度は中国が4点を連取、19—17とするという激しい展開。

残り1分で2点差とされた日本は、まず玉村が右サイドから決めて1点差。さらに、オールコートプレスに出て、中国のミスを誘いボールを得ると素速い展開から高村が持ち込み、中国の反則を誘ってPTを得た。残り時間は数秒しかなく、まさに勝負を決める一投となったが、西山がこれをよく決めて19—19の引き分け。

両チームともナショナルチームを組んでまだ日が浅いということもあって、コンビプレーが慣れておらず、細かなミスが多く見られ、まだまだ未完成のチームという感じであった。中国チームは、各選手ともがっちりとした体格をしており、シュートもパワフルなものを見せており、やはりコンビがとれてくれば日本の強敵であることは間違いない。

一方の日本だが、ディフェンスの方は、まあまあ足が動いており、よく集中力を切らさずに頑張っていたが、攻撃の方が今一歩。こう着状態となった時に突破口を見出す展開力がなく、単調なボール回しとなってミスから相手の速攻を食うケースが見られた。それと3本のPT失敗はいただけない。

▼第2戦

中国23（10—9 / 13—10）19日本

得	〔日本〕		〔中国〕	得
0	井藤	GK	閃碩	0
0	上村		虞偉	0
0	矢内	FP	白義順	3
5	西山		韋和平	2
0	藤井		薛満倉	0
1	市川		王侃	0
0	原田		張国栄	1
4	高村		安福田	4
3	立木		江山明	3
1	玉村		趙志偉	8
2	田口(勝)		徐旭波	0
2	田口(隆)		翟文明	0
0	荷川取		胡衛東	2
0	内藤			
0	川田			
1	山本			
19	(1)	PT	(3)	23

（審・後藤、島田）

新戦法1—2—3ディフェンスシフトで挑んだ全日本だったが、各選手間のつながりが、今一歩。中国にとって日本のミスプレーを、うまく処理して自軍のペースを崩さない巧みな勝利だった。

日本は、立ち上がり両45度に高村と田口勝の大同コンビ、右サイドに期待の左腕・玉村、左サイドにエース・西山、ポストには、藤井と立木、GK・矢内でスタート。

前半、先行したのは中国・左腕の徐旭波の右サイドシュート。日本は、玉村、市川の単発的なシュートが目立つものの、高村、立木のロング、サイドシュートで加点し、15分まで4—4の同点。その後互角の試合運びから、連続得点で抜け出たのは日本で、17分、玉村の右サイド、続いて田口隆のGKかのワンパス速攻シュートによるもの。21分、7—5とリード。

しかし、日本優勢かと思われたのが27分まで。その後、パスワー

クに冴えをみせる中国・安福田のカットイン、右45度ロング、さらに終了間際の趙志偉のPTで10―9と日本の守りのスキをついてあっさりと逆転。

後半、一気に勢いに乗った中国は、ハツラツとしたうま味のある動きで日本を押しまくった。趙志偉、江山明のミドル、速攻シュートで9分、16―11と5点リード。

日本としては、もうこれ以上のリードを許すことが出来ず、ディフェンスチェックを早目に切り替えた作戦が功を奏し、11分、中国・安福田にサイドで決められたものの、日本・西山→田口勝→市川→田口隆と15分まで、連続得点をあげ16―17と1点差に詰め寄る猛反撃。攻撃力のあるところをみせた。

鋭いカットインを見せる中国④薛満倉

しかし、この後が、いけなかった。17、18分と中国側の退場者が二人という場面で、ストーリング寸前まで攻めあぐむ拙攻で逆転のチャンスを自ら芽をつんでしまった。その後、中国はペースを取り戻し、鮮やかな横ライン攻撃、巧みなフェイント、速攻シュートで3連取の22―17。日本は、西山の左サイド、立木のミドルシュートで最後まで追撃をみせたものの点差を詰めただけにとどまった。

近年、めっきり力をつけてきた中国相手だけに、戦前から伯仲の争いが予想され、今後、世界選手権、ソウル五輪予選を占う意味において、格好の対戦カードといえた。しかし、前日の第1戦で19―19の引き分けに終わり、新生全日本としては、第2戦をものにして1勝1分で、この大会を終りたかった。

日本にとって今後、防御の基本とする1―2―3ディフェンスの効果は、まずまずとみていいだろう。両45度に高村、田口勝の長身者、トップに藤井（田口隆）とするトライアングルが今一つ、コンビネーション的に荒さが目立ったが、今後の長期練習で、その課題も解消されるだろう。さらに、1―2―3ディフェンスは、両45度の選手の動きが、0―6、1―5ディフェンスに比べ、体力的に消耗が激しい点から、ワンポイント的時間で、両サイドのフットワークのある選手とのチェンジによる効果ある技術を生むとも考えられる。

攻撃力は、西山、高村、田口勝のオリンピック経験者を中心にもっと自分の持ち味を、発揮すればパワーも増大するだろう。そのためにも、現在不在のコントロールタワー選手の確立が急がれるはず。

ダブルポスト攻撃を中心にする日本にとって、ゲームメイクをこなす選手のポジションが難しいが、ワンポスト・スリーフローターの型を引いた場合、センターの選手が、軸となる。田口隆などのステップを生かす意味も含め、彼の成長が期待される。

もう一つ、日本にとって明るい材料として若手エース首藤の欠場を忘れられない。彼の攻撃力からして4、5点は計算される。

問題は、前後半、終了間際の力の減退だろう。この点をもっと精神面だけでなく、技術面も含め多角度から考える必要がありそうだ。

一方、ヨーロッパ・スタイルを確立しつつある中国は、攻撃力に目をみはるものがあった。逆45度からサイドへと繰り出す横ラインから攻撃を展開するプレーは、完全なものといえた。白→趙→偉→サイドと流れる動きは、日本ディフェンスをまったくノーマークに崩す力を発揮した。さらに、細かいパスワークにもコンビネーションと巧みさが備わった印象さえうかがわせた。それ故、趙志偉、韋和平にGK・閃碩ら若手が中心だけに、今後の成長をプラスして考えれば日本にとっていやな存在といえるだろう。

中国の守りは、0―6型を中心にときおりみせる45度が上に浮く変型1―5と思い切ったプレーを見せた。さらに、韓国もさることながら、中国も、オーバージェスチャーによるタイムで、ゲームの流れを止める、あるいは変えてしまうまでのアクションを見せる。この試合にも2、3度、日本のチャンスムードを完全に阻んでみせた。こうした点は、日本チームも見習う余地があっていいのではないだろうか。

▼第3戦

（5月6日／横浜文化体育館）

中国 30（12―18 / 18―13）24 全日本学生

得	〔学生〕	
0	花田	GK
0	山本	GK
0	吉田	
7	朝生	FP
1	中沢	
1	武田	
6	平林	
1	木切倉	
2	綿引	
1	佐久間	
1	河原	
1	江沢	
2	山村	
0	岡	
1	橋本	
0	斉藤	
24	(6)	PT

得	〔中国〕	
0	閃　碩	GK
0	広　偉	GK
1	白義順	FP
1	韋和平	
1	薛満倉	
2	王　倪	
1	張国栄	
4	安福田	
5	江山明	
10	趙志偉	
2	徐旭波	
0	翟文明	
3	胡衛東	
30	(4)	PT

（審・岡本 清水）

'85チュンチェンカップ国際大会報告

日本、残念ながら第4位に

監督・鈴木義男

今年のチュンチェンカップ国際大会は、4月17日～21日まで台北市の台専体育館で、男子6チーム（スウェーデン、デンマーク、イタリア、韓国、台湾A、B）、女子5チーム（オランダ、日本、韓国、台湾A、B）で開催された。

私たち女子ジュニアチームは、4月9日から15日まで大崎電気で合宿をお願いし、ゲームを中心に総合練習を行ない、コンディション、戦術など確かなまとまりを感じ自信を持って大会に臨んだのである。

このチームの主力選手は、昨年のイタリア・テラモ国際大会遠征の経験もあり、このチュンチェン大会も2度目の参加者がほとんどで、今年こそはと期待も十分であった。

しかしながら成績は1勝3敗と残念ながら自分たちの力も出しきれず、昨年と変らない結果に終ってしまい責任を痛感する次第です。

第1戦の台湾Bチームは高校選抜ともいうべきチームで、スピード、正確さに未だの感がある。ゲーム開始間もなく14番干選手に2点連取され先行される。しかし、日本も近藤、井沢、大野の中心選手が速攻、カットイン、ミドルシュートなどで着々と加点、前半で勝負を決した感じである。後半は久保田、高校生の磯山のロングシュートがよく決まってワンサイドの点差となったが、第1戦のためか、集中力と判断のまずさが目についたゲームであった。台湾の于愛華選手が10得点をあげ注目を集めた。

韓国戦は、パワーと選手層の違いを見せつけられたゲームになった。今秋にジュニア世界選手権大会開催国だけに、長期間合宿を行なってきて、体力、技術とも安定しており、ゲームに対する執着心が違い過ぎる。また、レギュラーの中に高校生（13番金春心選手ほか）2、3人が加わってパワーあるプレーを見せており、層の厚さを感じさせ、ソウル・オリンピックへの育成が進んでいる印象を受けた。私たちは、現在の敗戦は覚悟しても接戦に持ち込み、次期にチャンスをと挑んだのだが、それも前半の16分頃まで6対9と3点差に詰めたのが精一杯で、あとはシュートの正確さとスピードの違いから大差となり、技術以前の問題も再確認したゲームであった。

オランダは大型ではあるが勝てない相手ではないので、ディフェンスを変型1・5でリズムを乱す戦法を取ったが、日本はいつもスタートが悪くリズムに乗りきれないうちに5点連取される。前半は両チームとも得点のリズムにムラがあり、3点、5点と連続得点はするのであるが相手にも連取される。前半終了時は11対12の1点差。後半に入るとスタミナ不足からか足が止ってミスの連続で自滅し、最後まで立直りが出来ず精神的弱さが出たゲームになった。

最終戦の台湾Aは、昨年のテラモでも対戦しているが少し戦力が落ちている感じである。日本は久保田、梅原を故障で欠いたこともあり、盛り上がりが今一歩で粘り強さやプレーの正確さがなかったように思う。

立ち上がり大野がペナルティスローを決めて先行するが10分過ぎまでは一進一退。しかしそれ以後シュートが入らず23分まで無得点で、一方的に相手のペース。その後、井沢、上西、市川と連取するが前半は8対13と5点差。後半は全員の動きも良くなり、強引なプレーも見られ、サイドシュート、ペナルティで1点差まで追い上げたが時間切れに終わる。

今大会は、ほとんどのゲームがスタート時のもたついている間に点を取られ、それが最後まで影響するゲーム展開で勝敗を左右する原因になっている。これはコンディション、集中力などのもって行きかたの課題にしたいと思う。

今大会の敗因をふり返って考えると、

○個々のプレーにスピードがなく、国際ゲームの激しい動きに対応出来るパワーが足りなかった。

○シュートのスピードとコースの甘さ、イージーミスが多く盛り上がりに欠ける。正確なプレーが必要。

○判断力、執着心など精神的要因。

若い選手だけに課題は山積みしていてすべてを練習しなければとは思うのだが、当面の目標である10月の世界選手権大会までの国内スケジュールの合間をぬっての合宿練習では時間的余裕に限度があり、それだけにすべての練習はともかく的をしぼって集中的にレベルアップを計り、不足した練習は個人メニューを作って各チームにご協力をお願いしたいと考えている。

今度は、もう一度7月にテラモ国際大会の遠征をお願いし、今大会の反省をもとに全力投球で立て直しを計りたいと思います。この大会出場に際しお世話いただいた台湾協会の役員と各チーム関係者のみなさまに厚くお礼を申し上げ今後のご協力をお願いする次第です。

◆遠征日程＆成績

◆4月16日　成田出発

◆4月17日　開会式

▼第1戦

日本 33（19－13、14－8）21 台湾B

◆4月18日

▼第2戦

韓国 35（17－6、18－9）15 日本

◆4月19日　日本はゲームなし。

◆4月20日

▼第3戦

オランダ 27（15－3、12－11）14 日本

◆4月21日

▼第4戦

台湾A 21（8－12、13－8）20 日本

◆4月22日　観光

◆4月23日　帰国

〔成績〕

①韓国（4勝）
②オランダ（3勝1敗）
③台湾A（2勝2敗）
④日本（1勝3敗）
⑤台湾B（4敗）

男子ジュニアチーム派遣大会成果報告

監督　本田　洋

1大会名
第3回香港大会

2開催期間
昭和60年4月4日～4月8日

3開催地
香港維多利亜公園手球場

4大会参加国
香港、中国、韓国、サウジアラビア、イラク、日本（6カ国）

5成績
①中国②韓国③日本④イラク⑤サウジアラビア⑥香港

▼予選

中国	29－22		イラク
日本	27	(14－5, 13－8)	13 香港
韓国	32－21		サウジアラビア

▼4～6位決定戦

イラク	25－20	サウジアラビア
イラク	34－18	香港
サウジアラビア	32－19	香港

▼1～3位決定戦

中国	28	(15－12, 13－6)	18 日本
韓国	31	(13－8, 18－10)	18 日本
中国	32	(16－12, 16－14)	26 韓国

6事業の成果

①現地でのトレーニング、コンディション

4月4日午前5時起床、空港へというスケジュールで始まり、大会が4月5日であり、ヨーロッパ等で行なわれる大会方法である試合と試合の間の時間を24時間とるようなこともなく、当日ダブルの試合を組まれており、強行なハードスケジュールに調整する方法として、栄養と休養をとることに最大の注意を払った。

気温22度、競技場は公園内コンクリート上、屋外という条件なので、出発前には屋外、コンクリート上を想定し練習をする等の工夫はしてきてはいたが、当日は出たとこ勝負であった。

②試合経過と戦評

12月にイタリアで行なわれるジュニア世界選手権大会の出場権はすでに得ているので、選考を兼ねての選手育成を主とした目的で大会へ臨む。10日前にユーゴ、西ドイツを経て帰国し、メンバーの中5名を組み替えて（今大会には競技力がやや劣る5名を参加させる）臨んだ。

しかし、大きな誤算があった。それは、前遠征で非常にレベルアップし、良い成果をあげて帰国した選手たちであったが、帰国後の10日間はそれぞれ所属チームの強化合宿期間に当っており、直前合宿に集合した時には疲労感を漂わせていた。

特に、精神、神経面において入学、入社等の手続きその他に追われ、合宿の合い間をぬって手続き完了のためにバタバタしなければならず、切り替えて集中できるだけの人間の強さを持ち得ていないジュニア選手層だけに、落ちつかない状態であった。ジュニア選手が、それぞれの所属チームにおいてリーダーシップを取り得ていない状態であることも一祭といえる。

選抜選考方式がもっともジュニア育成と強化となる方式であろうと確信していても、チーム編成後の訓練期間を多くとれない現状が選抜チーム特有のマイナス面をカバーすることができなかった。

当面、戦績における目標は、アジア、アフリカのリーダーシップをとることにあるが、今回対戦相手の中国は、ロサンゼルス・オリンピック後の新ナショナルチームであり、韓国はソウル・オリンピックへ向けてのジュニアとナショナルの混合であり、大会に臨んだ日本チームはジュニア選手を兼ねた不安定な状態であるだけに、優勝は望めなかった。（大会競技場で観察した時点には）2位を目算した。

ジュニア選手たちで、国内においてその所属するチームの中核となって活躍する選手はまだ少なく、今大会において初めてリーダーシップの取り方を学ぶ者や、今大会でフル出場することを体験する者などの編成チームとなり、未熟な基礎技能に加えて競技初体験というアガリが加わって、チームとして弱点をさらけ出す場面が多々起こる。

若手選手のミスをカバーすることに力を消耗してゆく中心選手たちが、ナショナル選手としての自覚と誇りで歯を食いしばっての戦いで、持てる力をフルに使い果たしてなお敗れるという精神的に悪い戦いぶりとなった。

③事業の総評と反省

(1)今後香港大会へ臨むにあたり、ナショナルBをあてるか、ジュニアをあてるかの再検討が必要。

ジュニアをあてるならば、レベルアップをいかに工夫できるかを明確にし、事実レベルアップしたジュニアでなければならぬ。

(2)ジュニア選手のリーダーシップ育成。

(3)強化コーチスタッフを増してその教育にあたること。

(4)ジュニア選手の所属監督と強い密着をし、育成の方向に援助をより多く得ること。

特別寄稿

アメリカで学んだこと これからの体力トレーニングを考える

連載3

渡辺慶寿

V 整理運動の計画（Cool down program）

整理運動は、激しい練習のため収縮している筋肉を、再び伸ばし緊張をほぐすために必要である。

(1)運動後の筋肉痛を減らす。
(2)柔軟性を高める。
(3)自己のからだの理解を増す。
(4)新鮮な気持になり、緊張からの開放に役立つ。

○ステップI　呼吸法

鼻から吸い、肺を満たす。

(1)はじめに、横隔膜がさがるように肺を満たす。
(2)次に下部肋骨と胸壁を押えながら肺に満たす（肺の中部）。
(3)次に肩をわずかに上げるようにして肺に満たす（肺の上部）。
(4)完全に吸気をしたら、腹部にわずかに空気を入れる。
(5)息を保ち、ゆっくりと口から出していく。

これを5回くり返し行なう。

○ステップII　伸張（ストレッチ）

(1)立位のハムストリング（膝腱）……20秒
(2)立位のそけい部（もものつけねの内側の）アキレス腱……20秒
(3)そん踞姿勢のスクワット……20秒
(4)　修正したハードル跳び越し、左右の脚……20秒
(5)脚上げ、上げたままにしておく……20秒
(6)脚広げ……20秒

○ステップIII　緊張をほぐす

背中をつけて寝る。

(1)両足を一緒に持ち上げ、両足の側面に手の平をつける。
(2)はじめ足から始めて、顔面まで緊張させたり弛緩させたりする。

イ、足、ロ、ふくらはぎ、ハ、大腿、ニ、腹部、ホ、胸部、ヘ、腕と手、ト、肩と首、チ、顔面（まゆをしかめる）

・一呼吸をして息を止め、上記の身体各部を緊張させゆっくりと弛緩させながら息を吐く。
・顔面まで行なったら静かに眼を閉じる。
・自分が静かな湖でボートを漕いだり、雲の上を航海していることを想像する。
・緊張をほぐし、自分のからだの中を空気が通り抜けることを感じる。そして夢を見る。

この弛緩練習によって、精神的、身体的緊張を減らす手助けとなる。また、からだの筋肉群を固くしたり、弛緩させたりすることを通じて自分のからだを一層知ることにもなる。

VI ウエイト・トレーニング計画（weight training program）

体力の基本となるものは、ウエイト・トレーニング計画であろう。（表4）からだの強さ、力、速度を発達させるものは、質的な時間（合理性）、密度、取り組みの姿勢による結果である。ウエイト・トレーニング室に足を入れたらすべての時間を集中してトレーニングに励む必要がある。すなわち、精神的な心構えは、技術練習と同じぐらい重要であることを自覚しなければならない。自分自身の「身体的側面」をより発達させることができるはずである。もし発達をしていなければ、正確に確実に実行すべきである。テストの結果、他人との比較で身体的特性を更に発達させる必要があるため正確に定める必要がある。

例えば、ベンチプレスにおいて90％の得点（非常に良好）であったが、スクワットで60％得点（境界）であったとする。この場合、脚の強さと力が弱い。従って、更に一生懸命トレーニングを積むことによって高めなければならず、さらに負荷運動を加えて、自身の欠陥をなおすよう努力することを知るべきである。

すべて運動選手は、現在の自己の強さ、力、運動の水準を高めることを要求している。自己の体力的発達は、競技の実力の向上により大きな影響をもたらす。各自の目標は、各自の弱点の分野を大きく向上させることや強い点を維持あるいは向上させるべきである。体

力向上の最終的目標は、全般的に調和がとれ、自己の実力が大きく向上することにある。

1　自己の熟練した技術をよりたやすく実行する能力を高める。

2　自分が受けるであろうあらゆる「けが」に対しての抵抗力、あるいは回復する力を向上させる。

3　爆発的な力を生み出す能力を高める。

4　最大に活動し、自己の忍耐の向上をさせる筋肉を調整する。

Ⅶ　重量の計画（lifting program）

この計画を用いてくために異なる3つの型を作成した。どの計画を用いるべきかは、「身体的側面」の得点によって用いるとよい。

1　全体のプログラム

この計画は、すでに高水準の強さと力とを表している運動選手のために作られている。もし自分の「身体的側面」の得点が、非常に良好（90％）、あるいは卓越した（100％）ものであるならよいことになる。この計画は1週間に3度のウエイト・トレーニングと、からだ全体の運動を課している。

2　分割プログラム（表5）

この計画は、強さと力が平均（70％）から良好（80％）の水準の運動選手のために作られている。

表4　ウエイト・トレーニング規定一覧表

全身のプログラム

基本運動

パワー	Time	反復回数	強度	Monday	Wednesday	Friday
Cycle I	3 Weeks	5,5,5,5,5	75%	M	H	M
Cycle II	3 Weeks	5,5,5,3,3,3	75%,80%	E	E	E
Cycle III	3 Weeks	5,5,3,3,2,2	75%,80%,85%	D	A	D
Cycle IV	3 Weeks	3,3,3,2,2,2	80%,85%	I	V	I
Cycle V	2 Weeks	5,5,5,5,5	75%	U	Y	U
				M		M
脚						
Cycle I	3 Weeks	8,8,8,8,8	70%	M	M	H
Cycle II	3 Weeks	8,8,8,6,6,6	70%,75%	E	E	E
Cycle III	3 Weeks	6,6,6,6,6	80%	D	D	A
Cycle IV	3 Weeks	6,6,6,4,4,4	80%,85%	I	I	V
Cycle V	2 Weeks	8,8,6,6,4,4	70%,75%,80%	U	U	Y
				M	M	
胸／肩						
Cycle I	3 Weeks	8,8,8,6,6,6	70%,75%	H	M	M
Cycle II	3 Weeks	8,8,6,6,4,4	70%,75%,80%	E	E	E
Cycle III	3 Weeks	6,6,6,4,4,4	75%,80%	A	D	D
Cycle IV	3 Weeks	6,6,4,4,2,2	75%,80%,85%	V	I	I
Cycle V	2 Weeks	6,6,6,6,6	80%	Y	U	U
					M	M

補足運動

	Legs	Chest/Shoulders	Back/Neck	Arms
Cycle I	3 x 10 Light	3 x 8 Light	3 x 10 Light	3 x 8 Light
Cycle II	3 x 8-12 Moderate	3 x 6-10 Moderate	3 x 8-12 Moderate	3 x 6-10 Moderate
Cycle III	3 x 8 Mod. Heavy	3 x 6 Mod. Heavy	3 x 8 Mod. Heavy	3 x 6 Mod. Heavy
Cycle IV	10,8,6 Heavy	8,6,4 Heavy	10,8,6 Heavy	8,6,4 Heavy
Cycle V	3 x 10 Moderate	3 x 8 Moderate	3 x 10 Moderate	3 x 8 Moderate

表5　分割プログラム

基本運動

Power Exercises	Time	Repetitions	Intensity	Monday	Thursday
Cycle I	3 Weeks	5,5,5,5,5	75%	H	M
Cycle II	3 Weeks	5,5,5,3,3,3	75%,80%	E	E
Cycle III	3 Weeks	5,5,3,3,2,2	75%,80%,85%	A	D
Cycle IV	3 Weeks	3,3,3,2,2,2	80%,85%	V	I
Cycle V	2 Weeks	5,5,5,5,5	75%	Y	U
					M
Leg Exercises					
Cycle I	3 Weeks	6,6,6,6,6	75%	M	H
Cycle II	3 Weeks	8,8,8,6,6,6	75%,80%	E	E
Cycle III	3 Weeks	8,8,6,6,4,4	75%,80%,85%	D	A
Cycle IV	3 Weeks	6,6,6,4,4,4	80%,85%	I	V
Cycle V	2 Weeks	6,6,6,6,6	75%	U	Y
				M	
Chest/Shoulder Exercises				Tuesday	Friday
Cycle I	3 Weeks	6,6,6,4,4,4	75%,80%	M	H
Cycle II	3 Weeks	6,6,6,6,6	80%	E	E
Cycle III	3 Weeks	6,6,4,4,2,2	80%,85%,90%	D	A
Cycle IV	3 Weeks	4,4,4,2,2,2	85%,90%	I	V
Cycle V	2 Weeks	6,6,6,4,4,4	75%,80%	U	Y
				M	

補足運動

	Legs	Chest/Shoulders	Back/Neck	Arms
Cycle I	3 x 10 Light	3 x 8 Light	3 x 10 Light	3 x 8 Light
Cycle II	3 x 8-12 Moderate	3 x 6-10 Moderate	3 x 8-12 Moderate	3 x 6-10 Moderate
Cycle III	3 x 8 Mod. Heavy	3 x 6 Mod. Heavy	3 x 8 Mod. Heavy	3 x 6 Mod. Heavy
Cycle IV	10,8,6 Heavy	8,6,4 Heavy	10,8,6 Heavy	8,6,4 Heavy
Cycle V	3 x 10 Moderate	3 x 8 Moderate	3 x 10 Moderate	3 x 8 Moderate

表6　交互プログラム

基本運動

Power Exercises	Time	Repetitions	Intensity	Day 1	Day 2	*Day 3
Cycle I	3 Weeks	5,5,5,5,5	75%	HEAVY	MEDIUM	MEDIUM
Cycle II	3 Weeks	5,5,3,3,2,2	75%,80%,85%			
Cycle III	3 Weeks	5,5,5,3,3,3	75%,80%			
Cycle IV	3 Weeks	3,3,3,2,2,2	80%,85%			
Cycle V	2 Weeks	5,5,5,5,5	75%			
Leg Exercisis						
Cycle I	3 Weeks	6,6,6,6,6	75%	MEDIUM	HEAVY	MEDIUM
Cycle II	3 Weeks	8,8,8,6,6,6	75%,80%			
Cycle III	3 Weeks	8,8,6,6,4,4	75%,80%,85%			
Cycle IV	3 Weeks	6,6,6,4,4,4	80%,85%			
Cycle V	2 Weeks	6,6,6,6,6	75%			
Chest/Shoulder Exercises						
Cycle I	3 Weeks	6,6,6,4,4,4	75%,80%	MEDIUM	HEAVY	MEDIUM
Cycle II	3 Weeks	6,6,6,6,6	80%			
Cycle III	3 Weeks	6,6,4,4,2,2	80%,85%,90%			
Cycle IV	3 Weeks	4,4,4,2,2,2	85%,90%			
Cycle V	2 Weeks	6,6,6,4,4,4	75%,80%			

*Day 3 is every other week for power/legs and shoulders/chest.

補足運動

	Legs	Chest/Shoulders	Back/Neck	Arms
Cycle I	3 x 10 Light	3 x 8 Light	3 x 10 Light	3 x 8 Light
Cycle II	3 x 8-12 Moderate	3 x 6-10 Moderate	3 x 8-12 Moderate	3 x 6-10 Moderate
Cycle III	3 x 8 Mod. Heavy	3 x 6 Mod. Heavy	3 x 8 Mod. Heavy	3 x 6 Mod. Heavy
Cycle IV	10,8,6 Heavy	8,6,4 Heavy	10,8,6 Heavy	8,6,4 Heavy
Cycle V	3 x 10 Moderate	3 x 8 Moderate	3 x 10 Moderate	3 x 8 Moderate

1週間に4日間のウエイト・トレーニング、すなわち1週間に2日間ずつの各身体の負荷運動を課している。

月と木……脚、背部、頸部

火と金……胸壁、肩、腕

3　交互に分割する計画（表6）

この計画は、強さと力が境界（60％）から劣っている（50％）水準の運動選手のために作られている。1週間に5日間のウエイト・トレーニング、すなわち交互の形式で1週間に2日から3日間各身体部分に負荷を課している。

1週目――月、水、金……胸壁、肩、腕

火、木……脚、背部、頸部

2週目――月、水、金……脚、背部、頸部

火、水……胸壁、肩、腕

ウエイト・トレーニング（Weight Training Exercises）（表6）

以下はウエイト・トレーニング種目の一覧である。この一覧を見て、各運動が身体のどの領域の向上に意味があるかを知ることができるし、自己の状況に応じて選択することも可能である。

1　基本運動（Base Exercises）

大きな筋群を働かせ、全体の強さや力を高めるためにつくられている。

2　追加運動（Supplemental Exercises）

「けが」をしやすい関節の周囲の小さな筋群を発達させるために組み入れられている。また、これらの運動はからだ全体の均衡と発達の向上をも助けるものである。

A表

運動	記述	回数	重さ/回	重さ/回
	70％～75％	5 5 5 5 5		

運動：運動種目を表し、実行すべき運動の選択を表す。

記述：各々のセットで実行するべき運動の強度を示す％は運動量である。

回数：各々のセットで行うべき回数を表す。

重さ/回：各々のセットで使用したウエイトの強度と、運動の回数を記録する。

運動処方（Exercise Proccription）

運動処方の例を示したのが上記のA表である。筋力、筋持久力を最大に効果を挙げるためのトレーニング計画である。

運動の周期（Cycling）

運動の周期は、以下を調節することによって行なう。

(1) 全体の運動数
(2) 各運動のセット数
(3) 各セットの繰り返し数
(4) 各セットの強度

ウエイトの量（weight）

ウエイト・トレーニングの目的は、各運動での量は徐々に増加させることであり、どれだけ量を持ち上げられるかではない。

量＝（くり返しの数）×（1セット当りのウエイト）×（セット数）

以下に述べることは、周期的に行なう練習の各サイクルにおける目標である。

サイクル1――全身の筋力作り

この課程は、ウエイト・トレーニングの基本的な練習を司るもので、のちに増加していく負荷に対してからだの準備段階といえる。したがって、相対的に軽量のウエイトとくり返数を多くした練習である。

サイクル2――強さを高める

トレーニングの密度と量を増しはじめる。からだが対応できるよ

うに使用するウエイトを徐々に増し、強さの向上を計る。

サイクル3―強さと力の発達

トレーニング量を減らし、徐々に密度とからだが適応し、発達し続けるようにウエイトを増加し続けることである。

サイクル4―最大の強さと力の発達

このサイクルを通じて、最大のトレーニングウエイトを試みること。ただし、重量が増加することは、「けが」の危険が大きいため注意して行なうことが必要である。

サイクル5―強さと力の洗練

このサイクルは、プレーに必要な強さと力またプレーに要求される強さと力を洗練することにある。

重量を決める手順（Lifting Routines）

以下に述べる手順にしたがい重量を決めていくことが、筋の強さや筋力の発達に効果をとげることができる。

基本運動（Base Exercises）

複数のセット

同一ウエイトを使用する決められた回数の反復の5つのセット。

表7　ウエイト・トレーニング一覧表

基本トレーニング		補足トレーニング	
POWER	VARIATIONS	LEGS	
Power Clean	Hang Clean	Leg Extension	Hip Flexion
Power Pulls	Hang Pulls	Leg Curl	
Push Press	Push Jerks	Ab-Adduction	
Snatch	Hang Snatch	Heel Raises	
LEGS	VARIATIONS	CHEST/SHOULDERS	
Parallel Squat	Front Squat	Dumbbell Flys	Upright Rows
Hip Press	Leg Sled	Decline Press	Shoulder Raises
Lunges	Step-Ups	Close Grip Bench	Shoulder Shrugs
Safe Squat	Hack Squat		
CHEST/SHOULDERS	VARIATIONS	BACK/NECK	
Bench Press	Dumbbell Bench	Bent-over Rows	Good Mornings
Incline Press	Dumbbell Incline	Lat. Pull Downs	Hyperextensions
Military Press	Dumbbell Military	Pull-overs	Stiff Leg Dead Lift
		Pull Ups	4-Way Neck
		Seated Rows	Manual Neck
		ARMS	
		Bicep Curls	Wrist Curls
		Tricep Extensions	
		Dips	
		Reverse Curls	

規定――5、5、5、5、5（5回反復の5セット）75％の強度。

例――定められた全ての回数を正しい方法で行なったら重量を上げる。

3重のセット

全体で6個のセット、同数の反復の3つのセットを行ない、次に反復回数を減らして別の3つのセットを行なう。3つのセットの各々にウエイトを加えてもよいし、定められた強度になるまで、各セットにウエイトを加えてもよい。

規定――8、8、8、6、6、6（8回反復で3セット、6回反復で3セット）70～75％の強度。

例――定められた全ての回数を正しい方法でできたら重量を上げる。

2重のセット

全体で6個のセット、同数の反復の2つのセットを行ない、反復回数を減らして、別の2つのセットを行ない、さらに反復の回数を減らして、2つのセットを終える。2つのセットのウエイトを加えてもよいし、定められた強度になるまで各セットにウエイトを加えてもよい。

規定――6、6、4、4、2、2（6回反復で2セット、4回反復で2セット、2回反復で2セット）それぞれ、75、80、85％の強度。

例――定められた全ての回数を正しい方法でできるようになったらウエイトを上げる。

反復のウエイトから始めて、反復回数を変えていく。3～4つのセット。

規定――3×8～12（8から12回反復の3つのセット）中等度のウエイト。

例――より反復回数を多くして、正しい方法で全てのセットを行なえたらウエイトを上げる。

進行性のセット

反復回数を減らし、ウエイトを増加させる。3～4つのセット。

規定――12、10、8（12、10、8回反復の一つずつの

補足運動（Supplemental Exercises）

複数のセット

同一のウエイトを使用。同数の反復の3～4つのセット。

規定――3×8（8回反復の3つのセット）中等度のウエイト。

例――定められた全ての回数を正しい方法で行なうことができたらウエイトを上げる。

平行のセット

各セットは、より少ない回数のセット）中等度のウエ

Drake 夫妻（前列の二人）囲んでの夕食会

イト。

例 ――各セットにおいて、規定された全ての回数を正しい方法で行なえたら、ウエイトを上げる。

Daily Exercise

ウエイト・トレーニングができない夏の期間がある。その時のために家庭でおこなう方法を実施することによって、今までのトレーニングの効果を維持、あるいは、向上させるために以下の方法を挙げた。この方法は、時間やトレーニングに制限を受ける時に、補助となるように企画され、また、追加の手がかりとして企てたものである。

ステップ1　腹部

準備運動として腹部の運動を行なうこと。

ステップ2　胸部

。押し上げ（腕立伏臥）―顔を下にして、床に両手を直接肩の下に置く。頭を上げて、背中をまっすぐにして、腕と胸壁を広げた姿勢まで押し上げながら息を吸ったり、吐いたりする。次にはじめの姿勢までからだを下げていきながら息を吸う。

。傾き押し上げ―押し上げの姿勢と同じでベッドや椅子に両足をかける。押し上げ運動と同じ方法で行なう。

ステップ3　肩

。腕立て押し上げ―両足を壁にもたれかけ、手をついた姿勢で手を肩幅にあわせてつく。床までからだを下げていきながら息を吸う。次に、はじめの姿勢までからだを押し上げながら息を吐く。

ステップ4　腕

。椅子による腕屈伸―2つの椅子間にからだを入れ、両手、両腕で体重をささえる運動。からだを下げながら息を吸い、次にまっすぐにした姿勢になるまで腕を伸ばす。そして息を吐く。

運動の規定（Exercise Bescriptions）

ステップ2、3、4、各運動はこの手順にしたがうこと。

セット＃1　10―20秒運動、10―20秒の休息。
＃2　〃
＃3　〃
＃4　〃
＃5　可能な限り多くくり返す。1分間の休息。
＃6　可能な限り多くくり返す。

向上の状態により、運動時間を延長し、休息時間を短縮する。各運動を10秒間に10～15回くり返すように努力する。

反復のウエイト・トレーニングのポンド重量（Repetition poundage chart）

以下の反復のウエイト・トレーニングのポンド重量を示す図を利用して、次のことが可能となる。

―各セットにおける適切な重量が定まる。

―各自の現在の強さと力のレベルに合うように、強度を調節することができる。

―各自の向上した強さと力のレベルに合うように練習強度を増加する。

自己の強さと力を向上させることを期待するならば、練習の量と強度のアップは、非常に重要である。以下のことは、定められた練習にしたがうのを助ける2つの例である。

例1

パワークリーンの場合、反復は75%の力で5セットを5回、270ポンドとする。

※注意

もし最近トレーニングを行なっていないならば、低い強度からはじめること。この場合は、250ポンドからがよい。

ステップ1　250ポンドのラインを左側の欄からみつける。

ステップ2　250ポンドのラインにおける適切な%の欄から定められた重量をみつける。

※注意

定められた運動において「重い」練習日と「中程度の」練習日の内容は、

「重い」練習日

250ポンドラインを75%(185ポンド)ではじめる。練習をはじめる前に、より軽いウエイトで2~3セットの準備運動を常に行なうこと。

セット1　185ポンド5回反復
セット2　〃　〃
セット3　〃　〃
セット4　〃　〃
セット5　〃　〃

これより260ポンドの重量を上げる。

トレーニングにより進歩するにしたがい、最後の1~2セットにおいて、できる限り数多く反復するように努力することが大切である。

「中程度の」練習日

この例では、240ポンドのラインで75%(180ポンド)を使用する。

例2

運動種目は、ベンチプレスである。反復はそれぞれ80%で6セット3回、85%で4セットを3回である。重量は350ポンドである。

ステップ1と2　例1と同じ

「重い」練習日

330ポンドを80%(265ポンド)および85%(280%)ではじめる。必ず練習をはじめる前に、2~3セット軽いウエイトで準備運動をすること。

セット1　265ポンド6回反復
セット2　〃　〃
セット3　〃　〃
セット4　280ポンド4回反復
セット5　〃　〃
セット6　〃　〃

以後340ポンドで上げる。

練習によって、強度が増しても絶対に満足してはならない。

定められたセットと反復回数を全てできるようになった時、1~2段ランク(ライン)を上げて練習をすること。強度の水準は、ウエイトのパーセントを上げることで各周期が調節される。

(以下次号)

表8　反復ポンド量

One Repetition Maximum	60%	70%	75%	80%	85%	90%	95%
450	270	315	335	360	380	405	425
440	260	305	330	380	375	395	420
430	255	300	325	345	365	385	410
420	250	295	315	335	355	375	400
410	245	285	305	330	350	370	390
400	240	280	300	320	340	360	380
390	235	275	290	310	330	350	370
380	230	265	285	305	320	340	360
370	225	260	275	295	315	330	350
360	220	250	270	290	305	325	340
350	215	245	260	280	300	315	330
340	200	240	255	270	290	305	320
330	195	230	245	265	280	300	310
320	190	225	240	255	270	290	305
310	185	215	230	250	265	280	295
300	180	210	225	240	255	270	285
290	175	205	215	230	245	260	275
280	165	195	210	225	240	250	265
270	160	190	200	215	230	245	255
260	155	180	195	210	220	235	245
250	150	175	185	200	210	225	235
240	145	170	180	190	205	215	225
230	140	160	170	185	195	205	215
220	130	155	165	175	185	200	210
210	125	145	155	170	180	190	200
200	120	140	150	160	170	180	190
190	115	130	140	150	160	170	180
180	110	125	135	145	155	165	170
170	100	120	130	135	145	155	160
160	95	115	120	130	135	145	150
150	90	105	110	120	125	135	140
140	85	95	105	110	120	125	135
130	80	90	95	105	110	115	125
120	70	85	90	95	100	105	115
110	65	75	80	85	90	100	105
100	60	70	75	80	85	90	95

ヨーロッパ情報

島林護

●第25回男子チャンピオン・カップ

ヨーロッパで最も伝統が深いクラブ選手権、第25回男子チャンピオン・カップ決勝は、4月14、21日に、メタロプラスチカ・シャバツ（ユーゴ）とアトレティコ・マドリッド（スペイン）との間で、それぞれのホームコートで争われ、第1、2戦とも完璧な試合運びでトータルスコア49—32と圧倒的な強さを示したメタロプラスチカが、初タイトルを獲得した。

メタロプラスチカは、昨年も決勝まで駒を進めたものの、劇的なPT合戦の末、チェコのディクラ・プラハに敗れただけに今回のファイナルに賭ける息込みは、計りしれないものがあった。一方、アトレティコの方も、東ドイツのSC・マクデブルクなど強豪を次々に破って決勝に進出してきた進境著しいチームとあっては、興味も一段と高まった好カードといえた。

シャバツのゾルコ体育館で行なわれた第1戦は、アトレティコが前半23分まで5—5と互角の試合を展開。中でも、GK・リコの果敢なキーピングは、イサコビッチとブヨビッチ（ユーゴ）のPTをゴール外にはじき出す素晴しいプレーを見せ場内を沸かせた。しかし、世界一のゴールキーパーと名をはせるキャプテン・バシッチを中心とするメタロプラスチカの守りは後半、地力を発揮。19分まで、相手ゴールを2得点と押える一方、外国チーム移籍料が5千万円と伝えられるサイドマン・イサコビッチに若手、ムルコニアの攻撃力が爆発。アトレティコの追撃を許すことなく19—12の7ポイントリードで第1戦をものにした。

マドリッドのパラタ・スポーツホールに場所を移した第2戦は、アトレティコの逆転勝利を信じて疑わない1万2千人のスペインのファンを集めた熱気あるものだった。しかし、ゲームの結果は、試合後、「プレーの技量が、我々を大きく超えていた。そのようなチームに負けても恥とは思わない。」とアトレティコのロマン・コーチが語るほど、メタロプラスチカのプレーは余裕あるものだった。

前半から正確なゲーム展開で16—9と試合を決定づけた後も、イサコビッチ、ブヨビッチ、ムルコニア（8得点）と大荒れ。アトレティコはアロンソ、ミリヤン、ガリシアをもって反撃を試みたものの、力の差は歴然としたもので30—20と押し切られた。

優勝を決めた後、メタロプラスチカのパブロビッチ・コーチは「選手たちは指示を正確に守ってくれた。ミスはなかった上に相手に押される所がなかった。また、陰の選手が頑張ってくれたことが特別に嬉しい」と満足のいく試合だったことに選手をほめたたえた。

▽第1戦（4月13日）

メタロプラスチカ・シャバツ（ユーゴ） 19（10—6、9—6）12 アトレティコ・マドリッド（スペイン）

▽第2戦（4月21日）

メタロプラスチカ・シャバツ 30（14—11、16—9）20 アトレティコ・マドリッド

（第2戦）

得	〔メタロプラスチカ〕		〔アトレティコ〕	得
0	バシッチ	GK	リコ	0
0	ルキッチ	GK	ゴメス	0
1	ポルトネル	FP	アロンソ	5
4	ブコビッチ	FP	レイン	2
2	イグニャトビッチ	FP	デラプエント	0
1	タナスイッチ	FP	ロペス	0
0	ミロシェビッチ	FP	ノバレス	1
8	ムルコニア	FP	ミリヤン	3
4	ブヨビッチ	FP	シェソ	3
6	イサコビッチ	FP	パリリヤ	1
2	ツベトコビッチ	FP	ストロエン	2
2	クズマノフスキー	FP	ガルシア	3
30	(4)	PT	(2)	20

審・アントルセン、ボルスタッド（ノルウェー）

●第24回女子チャンピオン・カップ

一方、第24回女子チャンピオン・カップ決勝は、女王スパルタ・キエフ（ソ連）が、昨年の覇者ラドニチキ・ベオグラード（ユーゴ）を第1、2ラウンドともに安定した守備力を発揮、逆転で快勝すると共に、今年で通算10回目の優勝という大偉業を達成してみせた。

第1戦は、4月7日、スパルタクのホームグラウンド、キエフ市（ドボルチャ体育館）に観衆7千人を集めて行なわれ、ラドニチキが、円熟した戦術をもってして前半25分まで8—7と優勢かと思われたものの、その後、終了寸前に

ヨーロッパ・チャンピオン・カップ歴代優勝チーム

☆男子☆		☆女子☆	
①（1957）レプル・プラハ	〔チェコ〕		
※（1958）※			
②（1959）レドベルグリエド・エーテボルグ	〔スウェーデン〕		
③（1960）フリスチャフ・ギョピンゲン	〔西ドイツ〕		
※（1961）※	〔	①スティンタ・ブカレスト	〔ルーマニア〕
④（1962）フリスチャフ・ギョピンゲン	〔西ドイツ〕	②スパルタク・ツコロバ・プラハ	〔チェコ〕
⑤（1963）ドュクラ・プラハ	〔チェコ〕	③トルド・モスクワ	〔ソ連〕
※（1964）※		④ラピッド・ブカレスト	〔ルーマニア〕
⑥（1965）ディナモ・ブカレスト	〔ルーマニア〕	⑤HG・コペンハーゲン	〔デンマーク〕
⑦（1966）DHFK・ライプチヒ	〔東ドイツ〕	⑥SC・ライプチヒ	〔東ドイツ〕
⑧（1967）VfL・グンメルスバッハ	〔西ドイツ〕	⑦ジルギリス・カウナス	〔ソ連〕
⑨（1968）ステアウワ・ブカレスト	〔ルーマニア〕	⑧ジルギリス・カウナス	〔ソ連〕
※（1969）※	※	※	※
⑩（1970）VfL・グンメルスバッハ	〔西ドイツ〕	⑨スパルタク・キエフ	〔ソ連〕
⑪（1971）VfL・グンメルスバッハ	〔西ドイツ〕	⑩スパルタク・キエフ	〔ソ連〕
⑫（1972）パルチザン・ビエロバル	〔ユーゴ〕	⑪スパルタク・キエフ	〔ソ連〕
⑬（1973）マイ・モスクワ	〔ソ連〕	⑫スパルタク・キエフ	〔ソ連〕
⑭（1974）VfL・グンメルスバッハ	〔西ドイツ〕	⑬SC・ライプチヒ	〔東ドイツ〕
⑮（1975）ASK・フォーアヴェルツ	〔東ドイツ〕	⑭スパルタク・キエフ	〔ソ連〕
⑯（1976）ボラツ・バニャルカ	〔ユーゴ〕	⑮ラドニチキ・ベオグラード	〔ユーゴ〕
⑰（1977）ステアウワ・ブカレスト	〔ルーマニア〕	⑯スパルタク・キエフ	〔ソ連〕
⑱（1978）SC・マクデブルク	〔東ドイツ〕	⑰TSC・ベルリン	〔東ドイツ〕
⑲（1979）TV・グロスバルスタット	〔西ドイツ〕	⑱スパルタク・キエフ	〔ソ連〕
⑳（1980）TV・グロスバルスタット	〔西ドイツ〕	⑲ラドニチキ・ベオグラード	〔ユーゴ〕
㉑（1981）SC・マクデブルク	〔東ドイツ〕	⑳スパルタク・キエフ	〔ソ連〕
㉒（1982）ホンベト・ブダペスト	〔ハンガリー〕	㉑バサス・ブダペスト	〔ハンガリー〕
㉓（1983）VfL・グンメルスバッハ	〔西ドイツ〕	㉒スパルタク・キエフ	〔ソ連〕
㉔（1984）ディクラ・プラハ	〔チェコ〕	㉓ラドニチキ・ベオグラード	〔ユーゴ〕
㉕（1985）メタロプラスチカ・シャバツ	〔ユーゴ〕	㉔スパルタク・キエフ	〔ソ連〕

ヨーロッパ・カップ・ウィナーズ・カップ

☆　男　子　☆		☆　女　子　☆	
①(1976) グラノラス・バルセロナ	〔スペイン〕	① ＴＳＣ・ベルリン	〔東ドイツ〕
②(1977) マイ・モスクワ	〔ソ　連〕	② フェレンツバロス・ブダペスト	〔ハンガリー〕
③(1978) VfL・グンメルスバッハ	〔西ドイツ〕	③ ＴＳＣ・ベルリン	〔東ドイツ〕
④(1979) ＳＣ・マクデブルク	〔東ドイツ〕	④ イスクラ・パルチザンスケ	〔チェコ〕
⑤(1980) カルピサ・アリカンテ	〔スペイン〕	⑤ スパルタクス・ブダペスト	〔ハンガリー〕
⑥(1981) TuS・ネテルスタット	〔西ドイツ〕	⑥ ＲＫ・オシェク	〔ユーゴ〕
⑦(1982) エンポル・ロストック	〔東ドイツ〕	⑦ ＲＫ・オシェク	〔ユーゴ〕
⑧(1983) スカ・ミンスク	〔ソ　連〕	⑧ ダルマ・スプリット	〔ユーゴ〕
⑨(1984) ＦＣ・バルセロナ	〔スペイン〕	⑨ ブドウチノスト・チートグラード	〔ユーゴ〕
⑩(1985) ＦＣ・バルセロナ	〔スペイン〕		

ヨーロッパ・ＩＨＦ・カップ

①(1982) VfL・グンメルスバッハ	〔西ドイツ〕	① トレシニエベカ・ザグレブ	〔ユーゴ〕
②(1983) ＳＩＩ・サポロシェ	〔ソ　連〕	② オートモビリスト・バク	〔ソ　連〕
③(1984) TV・グロスバルスタット	〔西ドイツ〕	③ チミストル・ピルセア	〔ルーマニア〕
④(1985) ミナウル・バイア・メア	〔ルーマニア〕	④ フォルバルツ・フランクフルト	〔東ドイツ〕

スパルタクが、相手の動きに疲れを読みとるや、速攻で3連取する巧みな攻撃で11―8と逆転。後半、リズムに乗ったスパルタクは、ラドニチキにとってホームゲームに望みをつなぐことが出来る4、5点差で試合を進めたものの、21分過ぎから、オーバステップのミスが重なり、攻撃の手だてを失なったラドニチキを突き放す連続ゴールを終了間際にあげ23―16。スパルタクにとって絶対有利の7点差をキープした。

4月14日、ベオグラードのバニツァア体育館で行なわれた第2戦は、まったく波乱に満ちた一戦といえた。

前半から積極的に攻撃をしかけるラドニチキは、13分、2―3とスパルタクにリードを許したものの、24分、6―4と逆転。さらに29分、8―5とし前半を終了。あわや大逆転劇かと思わせる大健闘を演じてみせれば、一転して後半は19分まで無得点、結局15―18とスパルタクの逆転勝利で幕がおろされた。

「あの20分間は、いったいどうしたことか。さっぱり理由がわからない。ハーフタイムでは、前半の調子を保つためにも、ミスの再確認を指示した。よりうまくいくはずだったが――」と呟くラドニチキのミラトビッチ・コーチは渋い顔。

ラドニチキサイドにとって悪夢としか考えられないものだった。

5―8から連続9ゴールで一挙に14―8と逆転したスパルタの勝因は、「カルロバのケガでパワー減退が心配だった。第2ハーフでの作戦は、ディフェンスを固め、得点するしかなかった」と試合後にトゥルチン・コーチが話したとおりの、一線（0―6）ディフェンスの守りにあった。ボール一つ通さないコンビネーションシステムは、39歳のトゥルチンやズバレバを始めほぼ全選手が、ソ連ナショナルで固められた最強の単独チームといえる完璧なものだった。

負けを予期せず戦うのが、女王・スパルタクといえ、ラドニチキも過去6度（優勝4回）決勝進出している強豪。ヨーロッパで「世界で最もすぐれたチームの激突」と伝えられる両チームの対戦は、今回で9度目。

▽第1戦（4月7日）
スパルタク・キエフ（ソ連）23（12―8, 11―8）16 ラドニチキ・ベオグラード（ユーゴ）

▽第2戦（4月14日）
スパルタク・キエフ 18（13―7, 5―8）15 ラドニチキ・ベオグラード

（第2戦）

得	〔スパルタク〕		〔ラドニチキ〕	得
0	ミトリイェク	GK	ジュキチ	0
0	ポボバ	GK	コロリヤ	0
0	カルロバ	FP	トミチェビッチ	0
2	トゥルチン	FP	ブジャ	1
0	セメノバ	FP	ダシッチ	5
0	サロバ	FP	ヤンコビッチ	0
6	ゴルブ	FP	ジュリツア	8
5	トブストガン	FP	エリッチ	1
0	ズバレバ	FP	ゴレ	0
4	オディノコバ	FP	ブイチッチ	0
1	デドゥセンコ	FP	ザリッチ	0
0	チャバン	FP		
18	(0)	PT	(4)	15

審・レランズ＝タンクレ（フランス）

●第9回女子カップ・ウィナーズ・カップ決勝

▽第1戦（4月6日）
ブドゥチノスト（ユーゴ）33（18―10, 15―8）18 ドルシュドベニク（チェコ）

▽第2戦（4月13日）
ブドゥチノスト 22（13―9, 9―9）18 ドルシュドベニク

各地の記録から・・・

佐賀県室内総合選手権

（12月16、20、23、25日／佐賀県体育館ほか）

〈一般男子1部〉

▼1回戦

龍登園ク 21-8 佐賀東OB

神農セブン 19-9 白石クA

鵲友ク 22-15 白石クB

佐賀教員葉隠 23-17 佐農3年

▼2回戦

神農セブン 20-18 龍登園ク

佐賀教員葉隠 20-13 鵲友ク

▼決勝

佐賀教員葉隠 20（9-7、11-10）17 神農セブン

〈一般男子2部〉

▼1回戦

県スポーツ主事会 18-7 神埼エラーズ

若神会 11-10 コナッカーズ

▼2回戦

県スポーツ主事会 14-10 よろづよ工務店

川原愛球会 14-6 若神会

▼決勝

川原愛球会 13（5-5、8-2）7 県スポーツ主事会

〈一般男子3部〉

▼1回戦

神埼バドラーズ 16-8 県庁ソフト部

基山中職員 8-6 佐盲ファイターズ

▼決勝

神埼バドラーズ 10（5-2、5-3）5 基山中職員

〈一般女子〉

▼1回戦

ミスアンドミセス 11-3 神農OG

▼2回戦

佐賀女子OG 11-9 ミスアンドミセス

ルンルンク 11-9 ホップク

▼決勝

ルンルンルンク 8（5-3、3-2）5 佐賀女子OG

〈高校男子〉

▼1回戦

佐賀東 14-9 佐賀農1年

神埼 13-11 佐賀農2年

▼2回戦

佐賀西 17-10 佐賀東

神埼農 14-13 神埼

▼決勝

神埼農 15（6-6、9-3）9 佐賀西

〈高校女子〉

▼1回戦

神埼農B 12-7 佐賀女

嬉野商 8-4 東松浦

神埼農A 22-2 神埼

▼2回戦

神埼農B 10-5 佐賀東

神埼農A 20-9 嬉野商

▼決勝

神埼農A 10（5-3、5-3）6 神埼農B

〈中学女子〉

▼1回戦

基山中A 21-5 ヤンガーズ

神埼中E 20-3 城北中

多久中央中B 11-6 神埼中B

神埼中F 20-13 ファイターズ

三田川球友 17-4 神埼中D

神埼中A 22-6 基山中C

▼2回戦

基山中A 18-15 神埼中E

神埼中F 15-8 多久中央中B

多久中央中A 28-8 三田川球友

神埼中A 28-1 ビクトリーズ

▼準決勝

基山中A 16-11 神埼中F

神埼中A 17-16 多久中央中A

▼決勝

神埼中A 11（7-4、4-6）10 基山中A

〈中学女子〉

▼1回戦

神埼中B 8-5 多久中央中C

多久中央中B 12-4 三田川中

▼2回戦

多久中央中A 18-3 神埼中B

多久中央中B 11-5 神埼中A

▼決勝

多久中央中A 10（5-1、5-1）2 多久中央中B

〈小学生男子〉

▼1回戦

ブリヂストン 12-1 三根東小C

厳木小広川分A 13-0 三根西小C

▼2回戦

ブリヂストン 11-2 三根西小B

三根東小A 13-1 厳木小広川分B

三根西小A 7-2 多久北部小

厳木小広川分A 6-2 三根東小B

▼準決勝

ブリヂストン 8-1 三根東小A

三根西小A 8-1 厳木小広川分A

▼決勝

三根西小A 7（2-3、5-3）6 ブリヂストン

〈小学生女子〉

※厳木小広川分校のみ参加、優勝。

香川中学新人大会

（1月6、7日／光洋中、県体育館）

〈男子〉

▼1回戦

山田 10-7 光洋

▼2回戦

山田 23-5 勝賀

香川一 19-6 紫雲

城内 14-9 桜町

古高松 9-6 香川東

▼準決勝

香川一 17-8 山田

城内 13-11 古高松

▼決勝

香川一 23（11-7、12-7）14 城内

〈女子〉

▼1回戦

光洋 10-4 紫雲

山田 6-3 桜町

玉藻 24-3 天王

▼2回戦

光洋 8-6 塩江

山田 13-6 古高松

香川一 9-7 香川東

玉藻 10-8 太田

▼準決勝

山田 7-6 光洋

香川一 17-10 玉藻

▼決勝

山田 9（5-3、4-3）6 香川一

三重県高校新人大会

（1月12、13、15日／四日市市霞ケ浦体育館他）

〈男子〉

▼1回戦

尾鷲 26－9 津
四日市 20－11 日生第二
桑名西 18－8 四日市四郷

▼2回戦
四日市工 28－10 尾鷲
四日市南 23－10 津西
亀山 21－20 四日市中央工
高田 13－9 桑名工
海星 25－18 四日市
津東 27－10 四日市西
津工 17－12 桑名北
桑名 28－15 桑名西

▼3回戦
四日市工 35－10 四日市南
高田 18－13 亀山
津東 23－12 海星
桑名 25－11 津工

▼準決勝
四日市工 31－2 高田
桑名 25－15 津東

▼3位決定戦
津東 20－9 高田

▼決勝
四日市工 30（18－3、12－6）9 桑名

〈女子〉

▼1回戦
津西 19－3 桑名北
四日市南 19－1 尾鷲
四日市四郷 20－1 松阪女
津東 9－5 四日市
上野 15－4 桑名
亀山 26－2 津
四日市商 11－8 四日市西

▼2回戦
暁 42－2 津西
四日市南 17－5 四日市四郷
上野 14－4 津東
四日市商 24－4 亀山

▼準決勝
暁 16－5 四日市南
四日市商 9－6 上野

▼3位決定戦
上野 14－7 四日市南

▼決勝
暁 14（7－5、7－5）10 四日市商

東海室内選手権三重県予選

（1月13日、20日／鈴鹿市体育館、ジャスコ富田体育館）

〈一般男子〉

▼1回戦
鳥羽商船 24－21 四日市中央ク
鈴鹿高専 23－12 皇学館大
鵜ノ森ク 16－15 鷲球会

▼2回戦
本田爽風会 37－19 鵜ノ森ク
セブンスターズ 39－14 鳥羽商船
三重教員 37－25 尾鷲ク
本田技研鈴鹿 51－3 鈴鹿高専

▼準決勝
本田技研鈴鹿 38－15 三重教員
本田爽風会 34－13 セブンスターズ

▼決勝
本田技研鈴鹿 26（12－9、14－4）13 本田爽風会

香川県中学1年生大会

（1月20日／光洋中）

〈男子〉

▼1回戦
香川一 9－5 城内
古高松 9－6 山田

▼2回戦
香川東 12－6 香川一
光洋 9－5 大川
紫雲 9－3 勝賀
古高松 5－1 桜町

▼準決勝
香川東 19－5 光洋
古高松 9－2 紫雲

▼決勝
香川東 15（7－4、8－3）7 古高松

〈女子〉

▼1回戦
古高松 8－4 紫雲
山田 10－1 桜町

▼2回戦
古高松 6－2 太田
塩江 5－2 香川一
光洋 9－7 玉藻
香川東 3－3 山田（PT戦）

▼準決勝
塩江 6－3 古高松
香川東 10－4 光洋

▼決勝
香川東 10（5－1、5－3）4 塩江

第16回岡山県高校室内選手権

（1月19日、20日／岡山県体育館）

※県新人大会の男子ベスト16、女子ベスト8に出場権。

〈男子〉

▼1回戦
倉敷天城 29－14 玉野
津山 10－8 児島
東岡山工 12－9 西大寺
倉敷商 31－3 吉備
玉野光南 21－18 操山
総社 23－9 芳泉
古城池 13－13 一宮（2PTC1）
倉敷工 19－10 倉敷南

▼2回戦
倉敷天城 18－9 津山
倉敷商 19－15 東岡山工
総社 23－12 玉野光南
倉敷工 11－11 古城池（3PTC2）

▼準決勝
倉敷天城 32－21 倉敷商
総社 13－10 倉敷工

▼3位決定戦
倉敷商 21－16 倉敷工

▼決勝
倉敷天城 25（12－11、13－10）21 総社

※倉敷天城3年ぶり7回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
落合 17－8 大安寺
総社 8－3 倉敷天城
児島 11－7 一宮
西大寺 13－9 真備

▼準決勝
落合 11－4 総社
西大寺 10－9 児島

▼3位決定戦
総社 11－8 児島

▼決勝
西大寺 15（7－3、8－2）5 落合

※西大寺は2年連続3回目の優勝。

第25回群馬県総合選手権

（1月13日、15日／前橋市民体育館）

〈男子〉

▼1回戦
藤岡ク 22－15 前橋高
富岡ク 27－19 前橋商高OB
吉井ク 27－17 甘楽ク
吉井高OB 18－15 群馬大

▼2回戦
群馬教員 32－16 藤岡ク
吉井高 23－18 前橋ク
前橋市役所 25－21 富岡市役所
富岡ク 23－17 前工ク
下仁田高OB 24－24 吉井ク

2PTC1

富岡高 34—14 桐生ク
前橋商高 29—24 富岡愛球会
富岡高OB 33—18 吉井高OB

▼3回戦
群馬教員 38—23 吉井高
富岡高 40—12 下仁田高OB
富岡高OB 36—23 前橋商高

▼準決勝
群馬教員 21—20 富岡ク
富岡高OB 32—21 富岡高

▼決勝
群馬教員 19（11—7、8—11）18 富岡高OB

※群馬教員は2年連続9回目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
高崎市女高 14—5 下仁田高OB
下仁田高 21—4 群女短大附高OG
吉井高 21—4 高崎市女高OG

▼2回戦
光電ク 23—7 高崎市女高
吉井高OG 13—10 群女短大附高
下仁田高 15—15（3PTC2）前橋ク
高崎スカイライン 18—9 吉井高

▼準決勝
光電ク 12—10 吉井高OG
高崎スカイライン 21—8 下仁田高

▼決勝
高崎スカイライン 18（8—8、10—5）13 光電ク

※高崎スカイラインは3年ぶり2回目の優勝。

第1回中学校水海道交流大会

（2月17日／水海道一高、水海道二高）

〈男子〉
▼準決勝
鬼怒 18—11 茎崎
新館 16—12 水海道

▼決勝
新館 20—12 鬼怒

〈女子〉
▼準決勝
結城 13—9 茎崎
土浦六 11—7 伊奈

▼決勝
土浦六 15—10 結城

昭和59年度滋賀県室内総合選手権

（2月17日、24日／滋賀県立体育館、彦根東高校）

〈男子〉
▼1回戦
滋賀教員 21—17 赤鬼教員
八幡工高 32—11 大津自衛隊
高島ク 11—6 滋賀大教育
京セラ 20—14 長浜北高
高島高 23—13 米原OHC
彦根東高 16—13 滋賀ハンタース
長浜ク 17—15 米原高
八幡ク 24—3 彦根市役所

▼2回戦
滋賀教員 29—12 八幡工高
高島ク 19—19（3PTC2）京セラ
高島高 25—15 彦根東高
八幡ク 不戦勝 長浜ク

▼準決勝
滋賀教員 26—13 高島ク
高島高 19—18 八幡ク

▼決勝
滋賀教員 26（16—6、10—11）17 高島高

〈女子〉
▼1回戦
彦根商高 28—0 安曇川高
大津ク 16—10 守山南中
愛知高 15—13 守女OG
滋賀ク 22—5 八幡商高

▼準決勝
彦根商高 33—4 大津ク
滋賀ク 25—6 愛知高

▼決勝
彦根商高 21（9—8、12—6）14 滋賀ク

第27回京都府知事杯選抜選手権

（2月17日、24日／京都府立体育館、伏見港公園総合体育館）

〈男子〉
京都教員B 37—9 東山クB
西宇治高 21—19 京友ク
高校選抜 30—13 田辺ク
東山高 24—9 舞鶴海自
京都教員A 23—19 葵ク
東宇治高 28—14 舞鶴高専
西宇治ク 22—19 乙訓
東山クA 38—15 向陽ク

▼2回戦
京都教員B 41—16 西宇治高
東山高 30—21 高校選抜
東宇治高 21—18 京都教員A
東山クA 34—19 西宇治ク

▼準決勝
京都教員B 27—15 東山高
東山クA 25—20 東宇治高

▼3位決定戦
東山高 24—14 東宇治高

▼決勝
京都教員B 30（13—8、17—6）14 東山クA

※京都教員Bは2年連続3度目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
京都女高 44—4 京都短大
向陽高 27—4 田辺ク
高校選抜 25—3 光華高
古都ク 12—10 東宇治高

▼準決勝
京都女高 20—7 向陽高
古都ク 14—13 高校選抜

▼3位決定戦
高校選抜 17—5 向陽高

▼決勝
古都ク 17（9—8、8—4）12 京都女高

※古都クは4年連続4度目の優勝。

千葉県実業団春季リーグ戦

（4月7日、20日／三井石油化学）

〈一部〉
三井石化 29—16 日産石化
三井石化 25—7 東京ガス
海自下総 37—10 日産石化
コスモ石油 26—12 東京ガス
コスモ石油 24—18 三井石化
出光千葉 24—12 東京ガス
コスモ石油 25—24 日産石化
海自下総 30—15 三井石化
海自下総 29—12 出光千葉
コスモ石油 35—5 東京ガス
出光千葉 21—18 三井石化
海自下総 33—6 東京ガス
出光千葉 25—25 日産石化
海自下総 22—13 コスモ石油

［順位］①海自下総②コスモ石油③出光千葉④三井石化⑤日産石化⑥東京ガス

〈二部〉
海自木補所 キケン 東京電力

［順位］①海自木補所②東京電力

▼1、2部入れ替え戦
海自木補所 19—16 東京ガス

※海自木補所が1部昇格。

第36回中国高校選手権鳥取県予選

（4月14、21日／倉吉東高、境港工高）

〈男子〉

▼1回戦
米子西 42－6 倉吉東
境 24－6 倉吉工
米子西 17－14 米子北

▼準決勝
境港工 22－16 米子西
境 21－6 米子東

▼決勝
境 22（11－6、11－5）11 境港工

▼敗者復活1回戦
米子北 20－15 倉吉工

▼敗者復活2回戦
米子西 14－13 米子北
米子東 キケン 倉吉東

▼3位決定戦
米子東 12－11 米子西

〈女子〉

▼1回戦
米子北 8－3 倉吉産
米子西 キケン 倉吉西
米子南商 20－3 米子東

▼準決勝
境 25－3 米子北
米子西 8－6 米子南商

▼決勝
境 20（10－6、10－0）6 米子西

▼敗者復活1回戦
米子北 13－12 米子東
米子南商 キケン 倉吉産

▼3位決定戦
米子南商 17－8 米子北

第30回中国一般選手権鳥取県予選

（4月14日／倉吉東高）

〈男子〉

▼1回戦
アシックスク 33－12 鳥取大
倉吉ク 21－10 境港市ク

▼3位決定戦
境港市ク 26－22 鳥取大

※男子は4チーム、女子はフリー出場。

長崎県春季選手権

（4月14、20、21日）

〈一般〉

▼決勝
佐世保ク 29（13－12、16－12）24 口加ク

〈高校男子〉

▼1回戦
瓊浦 25－2 大村
佐世保西 24－12 長崎工
口加 22－14 鹿町工
長崎南 25－22 西彼
北陽台 19－16 西海
長崎北 28－22 波佐見
上五島 23－19 佐世保商
日大高 28－21 佐世保北

▼2回戦
瓊浦 29－10 佐世保西
長崎南 24－16 口加
北陽台 28－14 長崎北
日大高 33－15 上五島

▼準決勝
瓊浦 29－12 長崎南
日大高 26－10 北陽台

▼3位決定戦
北陽台 25－14 長崎南

▼決勝
瓊浦 16（8－7、8－6）13 日大高

〈高校女子〉

▼1回戦
佐世保北 16－6 聖和
佐世保西 10－2 日大高
佐世保商 21－5 島原農
有馬商 12－7 長崎北

▼準決勝
佐世保北 8－5 佐世保西
有馬商 17－11 佐世保商

▼3位決定戦
佐世保商 11－5 佐世保西

▼決勝
佐世保北 25（11－9、14－7）16 有馬商

〈中学男子〉

▼1回戦
時津 26－9 福石
大瀬戸 13－8 大野

▼決勝
時津 31（17－1、14－0）1 大瀬戸

〈中学女子〉

▼1回戦
大瀬戸 11－5 日宇
大野 26－1 清水

▼決勝
大瀬戸 10（6－5、4－4）9 大野

三重県春季選手権

（4月14、21日／四日市工高、津東高）

〈一般男子〉

▼1回戦
鷲球会 21－19 半田ク
鵜ノ森ク 22－20 皇学館大
三重教員A 31－8 鳥羽商船
尾鷲ク 21－18 中央ク
三重教員B 29－28 鈴鹿工専

▼2回戦
本田技研 42－8 鷲球会
本田爽風会 37－9 鵜ノ森ク
三重教員A 22－18 尾鷲ク
三重教員B キケン セブンスターズ

▼準決勝
本田技研 31－15 本田爽風会
三重教員A 29－20 三重教員B

▼決勝
本田技研 45（22－8、23－9）17 三重教員A

〈高校男子〉

▼1回戦
四日市 16－15 日生第二
津 18－8 四日市中央工
桑名北 14－12 四日市四郷

▼2回戦
四日市工 34－9 四日市
四日市南 12－10 津工
高田 15－5 四日市西
亀山 23－9 津西
津東 19－5 桑名北
桑名西 22－13 桑名工
尾鷲 22－15 海星
桑名 23－8 津

▼3回戦
四日市工 32－6 四日市南
亀山 18－14 高田
津東 13－10 桑名西
桑名 18－16 尾鷲

▼準決勝
四日市工 40－6 亀山
津東 16－10 桑名

▼3位決定戦
桑名 32－17 亀山

▼決勝
四日市工 33（17－6、16－6）12 津東

〈高校女子〉

▼1回戦
四日市四郷 19－1 津北
津東 12－4 桑名
亀山 10－6 桑名西
上野 15－6 四日市西
尾鷲 14－8 津西

▼2回戦
暁 16－4 四日市四郷
四日市南 20－5 津東
上野 16－6 亀山
四日市商 23－3 尾鷲
▼準決勝
暁 9－7 四日市南
四日市商 16－10 上野
▼3位決定戦
四日市南 9－8 上野
▼決勝
暁 13（5－5、8－4）9 四日市商

宮城県春季選手権

（4月26～28日／仙台市総合体育館、県スポーツセンター）

〈一般男子〉
▼1回戦
ピーターパン 37－25 仙南OB
仙台大 26－14 東北大
学院OB 30－14 学院工学
育英OB 26－15 宮教大
▼2回戦
ピーターパン 32－25 福祉大
学院大 33－20 仙台大
学院OB 35－21 仙台電波
育英OB 43－13 宮城工専
▼準決勝
学院大 37－17 ピーターパン
育英OB 29－29（PTC 1－0）学院OB
▼決勝
学院大 39（19－6、20－12）18 育英OB

〈高校男子〉
▼1回戦
仙台一 13－8 仙台三
古川商 33－10 仙台西
育英 29－13 泉松陵
佐沼 32－2 榴ヶ丘
▼2回戦
仙台一 18－17 名取北
県工 20－9 仙台商
古川工 26－13 仙台南
古川商 18－10 塩釜
育英 32－10 一迫
仙台 31－16 泉館山
仙台二 27－10 東北
向山 27－9 佐沼
▼3回戦
仙台一 14－10 県工
古川工 20－17 古川商
育英 34－11 仙台
向山 41－9 仙台二
▼準決勝
古川工 27－6 仙台一
向山 20－14 育英
▼決勝
古川工 21（12－10、9－9）19 向山

〈女子〉
▼1回戦
宮城二女 14－5 福祉大
聖和 19－10 飯野川
塩釜女 33－3 泉松陵
名取北 15－7 仙台女商
涌谷 18－8 朴沢
築女 12－10 宮城三女
古川商 19－5 宮城一女
▼2回戦
古川女 14－10 宮城二女
聖和 21－10 塩釜女
涌谷 28－4 名取北
古川商 22－3 築女
▼準決勝
聖和 17－7 古川女
涌谷 17－10 古川商
▼決勝
涌谷 12（4－5、8－2）7 聖和

第40回岡山県高校春季優勝大会

（4月20、21、27日／倉敷商高）

〈男子〉
▼1回戦
落合 32－11 吉備
玉野光南 21－12 岡山工
古城池 14－8 一宮
水島工 14－11 朝日
津山 23－10 和気閑谷
倉敷南 23－8 金川
大安寺 20－10 関西
西大寺 25－3 高梁工
青陵 17－14 操山
芳泉 20－15 矢掛
児島 15－11 邑久
東岡山工 17－8 玉野
▼2回戦
天城 29－9 落合
古城池 14－11 玉野光南
水島工 16－14 津山
倉敷工 23－9 倉敷南
倉敷商 20－9 大安寺
西大寺 17－16 青陵
芳泉 17－13 児島
総社 16－9 東岡山工
▼3回戦
天城 20－11 古城池
倉敷工 26－18 水島工
倉敷商 21－16 西大寺
総社 18－8 芳泉
▼準決勝
倉敷工 17－15 天城
総社 26－14 倉敷商
▼3位決定戦
天城 20－14 倉敷商
▼決勝
総社 27（11－6、16－8）14 倉敷工
※総社は2年連続2回目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
天城 20－10 津山
倉敷商 9－5 津山商
大安寺 16－10 倉敷中央
倉敷商 31－5 青陵
▼2回戦
西大寺 7－1 天城
芳泉 11－7 玉野光南
操山 9－3 備前東
児島 22－9 倉敷南
総社 12－7 大安寺
真備 20－1 金川
一宮 7－7（PTC 2－1）古城池
落合 15－10 倉敷商
▼3回戦
西大寺 22－5 芳泉
児島 14－11 操山
総社 12－7 真備
落合 18－9 一宮
▼準決勝
西大寺 12－8 児島
総社 14－10 落合
▼3位決定戦
落合 13－11 西大寺
▼決勝
総社 24（12－5、12－5）10 児島
※総社は5年連続5回目の優勝。

第11回山形県春季選手権

（4月28、29日／日大山形高）

〈男子〉
▼1回戦
大石田高 13－9 山形工高
新庄工高 27－18 東根球友会
山形大 30－18 新庄ク
真室川高 23－17 大東会
東根工高 23－17 山形東高
▼2回戦
真室川高OB 29－7 大石田高

新庄工高 27－22 大石田高矢作会
山形大 27－16 真室川高
寒河江高 16－11 東根工高
▼準決勝
真室川高OB 32－23 新庄工高
山形大 17－6 寒河江高
▼決勝
山形大 23（13－8、10－13）21 真室川高OB
※山形大は初優勝。

〈女子〉
▼1回戦
日大山形高 38－8 竹田女高
米沢女高 19－11 竹桜ク
▼決勝
日大山形高 27（11－7、16－3）10 米沢女高
※日大山形高は2年連続2回目の優勝。

第14回三重県春季中学生選手権

（4月21、28日／津東高、四日市工高）

〈男子〉
▼1回戦
西笹川 31－12 明和
東員二 キケン 富田
菰野 13－12 亀山
西朝明 18－16 白子
▼準決勝
西笹川 34－7 東員二
西朝明 17－8 菰野
▼決勝
西笹川 25（14－1、11－2）3 西朝明

〈女子〉
▼1回戦
笹川 19－8 東員二
明和 18－5 白子
朝明 17－7 大安
拓植 18－8 亀山
▼2回戦
西笹川 17－3 笹川
明和 20－8 桔梗が丘
朝明 8－7 菰野
西朝明 36－7 拓植
▼準決勝
西朝明 12－2 朝明
西笹川 12－3 明和
▼決勝
西笹川 21（9－1、12－3）4 西朝明

昭和60年度前期福井県選手権

（4月27～29日／北電体育館、羽水高）

〈一般男子〉
▼1回戦
勝山ク 19－14 藤島ク
福井大 30－14 羽球会
福井ク 12－0 高志OB
ボンバーズ 22－13 福井高専
▼2回戦
福井教員 38－10 勝山ク
光陽会 28－21 福井大
北陸電力 26－14 福井ク
若狭愛球会 26－10 ボンバーズ
▼準決勝
福井教員 25－18 光陽会
北陸電力 21－20 若狭愛球会
▼決勝
福井教員 21（11－7、10－5）12 北陸電力

〈一般女子〉
▼1回戦
KIDS 12－0 ママさんク
▼決勝
全福井 32－7 KIDS

〈高校男子〉
▼1回戦
藤島 19－8 羽水
科技 21－8 丹南
▼2回戦
金津 21－10 藤島
武生 16－13 勝山
高志 25－7 福井商
北陸 23－9 科技
▼準決勝
金津 30－7 武生
北陸 20－15 高志
▼決勝
金津 26（13－5、13－4）9 北陸

〈高校女子〉
▼1回戦
勝山 12－9 福井女
高志 18－8 北陸
▼2回戦
仁愛女 35－8 勝山
武生商 24－3 科技
羽水 23－3 藤島
福井商 11－9 高志
▼準決勝
仁愛女 19－17 武生商
羽水 13－9 福井商
▼決勝
仁愛女 18（8－7、10－6）13 羽水

第63回愛知県実業団リーグ戦

（4月8日～26日）

▼1部
トヨタ車体 30－22 豊田自動織機
日本電装 25－17 新日鉄名古屋
トヨタ自動車 38－21 新日鉄名古屋
トヨタ自動車 33－21 日本電装
トヨタ車体 25－18 新日鉄名古屋
大同特殊鋼 40－13 日本電装
大同特殊鋼 29－14 豊田自動織機
トヨタ車体 23－20 日本電装
トヨタ自動車 25－21 豊田自動織機
トヨタ自動車 19－11 トヨタ車体
大同特殊鋼 35－13 トヨタ車体
大同特殊鋼 28－16 トヨタ自動車
豊田自動織機 23－18 日本電装
豊田自動織機 24－16 新日鉄名古屋
大同特殊鋼 37－10 新日鉄名古屋
［順位］①大同特殊鋼②トヨタ自動車③トヨタ車体④豊田自動織機⑤日本電装⑥新日鉄名古屋

▼2部
豊田合成 38－9 パイロットインキ
豊田工機 43－15 ブラザー工業
ブラザー工業 23－20 東海理化電機
アイシン精機 27－15 パイロットインキ
豊田工機 33－13 東海理化電機
日本硝子 16－11 東海理化電機
ブラザー工業 27－23 日本硝子
豊田合成 32－22 アイシン精機
豊田工機 44－16 日本硝子
パイロットインキ 13－11 東海理化電機
豊田合成 41－15 ブラザー工業
アイシン精機 33－13 ブラザー工業
パイロットインキ 17－17 日本硝子
豊田工機 35－28 アイシン精機
豊田合成 29－21 豊田工機
［順位］①豊田合成②豊田工機③アイシン精機④ブラザー工業⑤日本硝子⑥パイロットインキ⑦東海理化電機

第5回京都府高校選手権兼第39回春季選手権

（4月20～29日／向陽高、乙訓高）

〈男子〉
▼1回戦
東山 39－8 城南
洛陽工 15－10 洛水
洛西 20－6 久御山
大谷 16－10 鴨沂
嵯峨野 26－16 同志社
洛北 31－9 伏見工
桂 16－7 堀川
向陽 26－18 日吉丘
西宇治 30－13 洛星
南八幡 12－0 塔南
城陽 17－8 京都西
京都商 33－2 西乙訓
北嵯峨 27－16 桃山
東宇治 32－10 田辺
平安 25－14 北稜
乙訓 26－13 洛東
▼2回戦
東山 31－12 洛陽工
大谷 18－16 洛西
嵯峨野 14－10 洛北
乙訓 19－13 桂
西宇治 29－21 向陽
城陽 28－8 南八幡
北嵯峨 26－13 京都商
東宇治 56－10 平安
▼3回戦
東山 34－7 大谷
乙訓 16－14 嵯峨野
西宇治 25－15 城陽
東宇治 23－13 北嵯峨
▼準決勝
東山 36－10 乙訓
東宇治 22－17 西宇治
▼決勝
東山 29（17－14、12－9）23 東宇治
※東山は4年連続8回目の優勝。

〈女子〉
▼1回戦
東稜 27－4 鴨沂
桃山 16－4 洛東
洛北 12－9 日吉丘
桂 10－9 精華
洛西 16－2 久御山
田辺 15－11 乙訓
嵯峨野 15－5 北稜
明徳商 10－5 塔南
洛水 18－5 北嵯峨

▼2回戦
東宇治 22―10 東稜
西宇治 12―8 桃山
城陽 14―11 洛北
光華 35―5 桂
向陽 16―3 洛西
田辺 20―5 城南
明徳商 7―6 嵯峨野
京都女 19―8 洛水

▼3回戦
東宇治 32―7 西宇治
光華 33―12 城陽
向陽 25―7 田辺
京都女 28―10 明徳商

▼準決勝
東宇治 22―15 光華
京都女 13―10 向陽

▼決勝
京都女 21（11―8、10―9）17 東宇治

※京都女は7年ぶり15回目の優勝。

東北クラブ選手権青森県予選

（3月31日／七戸町立体育館）

▼男子決勝
七戸ユニオン 35（22―14、13―8）22 青森ク

▼女子決勝
あすなろク 24（13―4、11―7）11 七戸CATS

第12回青森県春季社会人選手権

（4月20日、21日／野辺地町立体育館）

〈男子〉

▼1回戦
野辺地クB 不戦勝 海自第2般空部
弘前ク 28―23 陸自青森駐屯地
野辺地クA 28―18 弘前大

▼2回戦
青森ク 32―22 野辺地クB
七戸ユニオン 32―21 尾上ク
青森教員 26―21 弘前ク
野辺地クA 43―18 青商ク

▼準決勝
七戸ユニオン 35―24 青森ク
青森教員 35―28 野辺地クA

▼決勝
七戸ユニオン 30（15―15、15―14）29 青森教員

〈女子〉

▼リーグ戦
あすなろク 14―10 青森ク
青森ク 22―12 七戸CATS
あすなろク 28―9 七戸CATS

［順位］①あすなろク②青森ク③七戸CATS

石川県高校春季大会

（4月20、21、28日／小松商高）

〈男子〉

▼1回戦
小松工 41―5 羽咋
金沢市工 22―10 県工
二水 20―10 星稜
小松商 25―13 松陵工
小松 25―10 錦丘
向陽 20―11 松任
金沢商 23―11 寺井
明峰 28―13 泉丘

▼2回戦
小松工 28―16 金沢市工
小松商 24―19 二水
小松 33―11 向陽
明峰 31―10 金沢商

▼準決勝
小松工 27―18 小松商
明峰 26―13 小松

▼決勝
小松工 34（17―11、17―6）17 明峰

※小松工は8度目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
小松商 23―8 金沢商
寺井 25―9 短大高
松任 10―9 星稜

▼準決勝
小松商 22―7 寺井
明峰 29―4 松任

▼決勝
小松商 22（12―2、10―2）4 明峰

※小松商は7度目の優勝。

富山県高校春季大会

（4月28日、29日、5月3日／高岡向陵高）

〈男子〉

▼1回戦
富山商 21―15 富山東
大沢野工 25―17 富山高専
高岡商 26―20 小杉
富山工 17―15 富山南
水橋 18―8 富山中部

▼2回戦
高岡向陵 30―18 富山商
八尾 11―11 呉羽（2PTC1）
大沢野工 20―16 富山
二上工 20―11 高岡商
氷見 25―15 富山工
新湊 19―11 高岡南
雄山 19―12 伏木
高岡 32―5 水橋

▼3回戦
高岡向陵 34―17 八尾
二上工 31―7 大沢野工
氷見 27―11 新湊
高岡 25―15 雄山

▼準決勝
高岡向陵 30―9 二上工
高岡 15―13 氷見

▼決勝
高岡向陵 29（3―2、4―0、14―13、8―9）24 高岡

※高岡向陵は3年ぶり3回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
高岡女 12―12 小杉（2PTC1）
富山女短付 17―7 富山女
高岡向陵 21―10 高岡一

▼2回戦
有磯 24―3 高岡女
富山女短付 16―8 高岡
富山北部 15―5 新湊
高岡商 14―12 高岡向陵

▼準決勝
有磯 28―10 富山女短付
高岡商 30―3 富山北部

▼決勝
有磯 19（11―6、8―7）13 高岡商

※有磯は4年ぶり14回目の優勝。

第28回近畿高校選手権奈良県予選

（5月3～5日／生駒市総合体育館、生駒市民体育館）

〈男子〉

▼1回戦
橿原 15―14 一条

▼2回戦
生駒 20―13 橿原
畝傍 9―8 十津川
天理 21―7 富雄
添上 17―9 郡山
東大寺 13―11 奈良
奈良工 20―9 広陵
斑鳩 27―7 上牧
正強 39―0 桜井商

▼3回戦
生駒 24―3 畝傍
添上 19―8 天理
東大寺 15―12 奈良工
正強 18―14 斑鳩

▼準決勝
生駒 10―10 添上（2PTC1）
東大寺 18―16 正強

▼決勝
生駒 21（12―7、9―9）16 東大寺

〈女子〉

▼1回戦
添上 27―1 富雄
一条 9―8 十津川
白藤 11―10 橿原

▼2回戦
添上 16―9 短大付
一条 23―5 桜井商
郡山 12―4 上牧
生駒 16―7 白藤

▼準決勝
添上 26―10 一条
郡山 9―9 生駒（2PTC1）

▼決勝
添上 19（9―1、10―3）4 郡山

※男子は4校、女子は2校が近畿大会に出場。

日本ハンドボール史編集委だより

球史を飾る99のエピソードの概要

新年度に入って編集委員会の動きは、いよいよ本格化しました。

各地に点在する多くの先輩からも、手紙や電話で、かなりの情報が日本協会（03―481―2361）へ寄せられ、これまで〝空白〟といわれた部分も、かなり埋まりはじめています。

こうしたムードのなかで、5月3日、東京で第2回編集委員会が開かれ、目次案の最終的な詰めを行ない、執筆者のリストアップにまで進みました。

本編ともいうべき「日本ハンドボールの歩み」は、各委員の活発な意見交かんのあと、年代別に、次のように委員の分担を決定、今後は、それぞれの委員が担当年代の歴史の掘り起しを行ない、来春までに、原稿としてまとめあげます。

まず、日本協会前史となる「大正11年～昭和10年」は藤本強、水上一、新井節男の各委員が受け持ち、「昭和11年～17年」は外山准二、嶋田新太郎両委員が、健筆をふるいます。

今回の一つのポイントといわれる戦時中「昭和18年～20年8月」は入江信太郎委員長と村田弘委員、戦後の「昭和20年9月～37年」は岡村昭二、外山、村田委員、「昭和38年～44年」は岡村、藤本委員、「昭和45年～52年」は杉山茂、嶋田委員、「昭和53年以降」は、川上整司委員と大野金一専務理事（編集委員会顧問）が担当します。

各委員は、各年度の日本協会の動きを細大もらさずチェック、その事業の周辺を肉づけするわけですが、どうか全国の皆さんも、編集委員にまかせるだけではなく「この年には、こんなコトがありましたよ」といった情報を、是非、お教え下さい。

入江委員長は、ミーティングのたびに、このような発言をしているのです。

「歴史というのはまとめたあとで、新史実が出てくるケースが多い。（日本ハンドボール史）は、なるべくそのようなことを少なくしなければならない」と。

重ねてご協力をお待ちします。

99のエピソード集める

さて、前号でも触れましたが、今回の編集では、本編のほかに、球史を彩ったいくつものイベントのなかから、これはというものをピックアップ、当事者や編集委員がドキュメント・タッチで、エピソードをつづるという企画が盛りこまれます。

第1回（昨年12月）の編集委員会で、このパートを「球史を飾る99のエピソード」というタイトルにすることを申し合せ、各委員が50づつのイベントを提案、このほど次の97項目を、まず採択することになりました。

①ハンドボールが日本に上陸した日（大正11年）
②**学校体操教授要目への加入**（大正15年）
③陸軍戸山学校での採用（昭和2年）
④**社会体育としての始動**（昭和3～5年）
⑤ＩＡＨＦへの加盟（昭和3年）
⑥日本陸連内での胎動（昭和6年）
⑦バムペル氏を招いての講習会（昭和10年）
⑧**女子教授要目に加入**（昭和11年）
⑨ベルリン・オリンピック（昭和11年）
⑩幻の東京オリンピック（昭和12～15年）
⑪慶大、早大、日体、文理大、明大でのスタート（昭和12～13年）
⑫第1回関東選手権と同全日本選手権の思い出（昭和12年）
⑬岡山協会の発足（昭和13年）
⑭日本協会設立、その日（昭和13年）
⑮東京オリンピック候補の合宿（昭和13年）
⑯初の社会人チーム「東京ＹＭＣＡ」
⑰初の企業チーム「倉敷絹織岡山」（昭和13年）
⑱ヒットラー・ユーゲントの来日（昭和13年）
⑲第1回東西対抗（昭和13年）
⑳日体対在日ドイツ艦隊（昭和15年）
㉑早慶の朝鮮遠征（昭和15年）
㉒**横浜・神戸外人との交流**
㉓第1回全日本中学（旧制）選手権（昭和15年）
㉔関西球界の動き～戦前の部～
㉕高女の活動
㉖訪日ドイツ艦隊との対戦（昭和17年）
㉗「大日本体育会送球部会」時代
㉘**女子専門学校選手権**（昭和18年）
㉙枢軸国交歓球技大会（昭和18年）
㉚戦時中の球界
㉛戦後初ゲーム（昭和20年）
㉜復活した東西対抗（昭和21年）
㉝日本ハンドボール協会復活へ
㉞「日本協会旗」の制定（昭和21年）
㉟国体への参加（昭和21年）
㊱関西学生リーグスタート（昭和22年）
㊲**用具配給制度**（昭和22年）
㊳全国高体連ハンドボール部発足（昭和24年）
㊴全日本総合選手権復活（昭和25年）
㊵初のインターハイ（昭和25年）
㊶ＩＨＦへの復帰（昭和25～27年）
㊷各種東西対抗の思い出（昭和26年）
㊸機関誌の刊行（昭和26、34年）
㊹初の室内ハンドボール（昭和27年）
㊺ナイトゲームの開催（昭和28～32年）
㊻記者クラブとのこん親試合（昭和22～34年）
㊼二度の関東学生界分裂（昭和29、31年）
㊽西ドイツの来日（昭和31年）
㊾11人制へのけつ別（昭和32、38年）
㊿**桜台高の快進撃**（昭和28～32年）
(51)寝屋川高対熊本市立戦（昭和33年）
(52)幻に終った世界選手権参加（昭和34年）
(53)東京オリンピック哀愁（昭和34～39年）
(54)ルーマニアの来日（昭和35年）
(55)本格的実業団時代の到来（昭和35年）
(56)第4回世界選手権への参加（昭和36年）
(57)日体大の韓国遠征（昭和36年）
(58)関学の奮戦
(59)芝浦工大黄金期
(60)女子も世界への道（昭和37年）
(61)韓国チームの来日始まる（昭和38年～）
(62)立大の復活
(63)世界学生選手権始まる（昭和38年）
(64)中国との交流（昭和40年）
(65)ミュンヘン・オリンピック（昭和41～47年）
(66)全日本男子ヨーロッパ初合宿（昭和44年）
(67)ユーゴの来日（昭和48年）
(68)東ドイツとの交流（昭和49年）
(69)アジア競技大会へ（昭和49年～）

⑦⓪女子密室試合（昭和50年）
⑦①モントリオール・オリンピックへ（昭和48～51年）
⑦②沖縄特別国体（昭和48年）
⑦③女子実業団の盛衰
⑦④日本リーグの発足（昭和51年）
⑦⑤第1回アジア選手権（昭和52年）
⑦⑥モスクワ・オリンピックへ（昭和52～55年）
⑦⑦中国の国際舞台復帰（昭和54年）
⑦⑧スポーツ少年団活動
⑦⑨全国中学生大会のスタート（昭和47年）
⑧⓪全日本女子苦難時代
⑧①高校センバツ大会の開始（昭和54年）
⑧②ロサンゼルス・オリンピックへ（昭和56年～59年）
⑧③「クラブ」新時代
⑧④ジュニアも国際化
⑧⑤**日本協会の財政～登録料の変せん～**
⑧⑥公認コーチ制度
⑧⑦「スカイプレー」の誕生
⑧⑧歴代6会長（大谷、平沼、永井、式場、田村、鈴木）の思い出
⑧⑨ソウル・オリンピックへ
⑨⓪大阪イーグルスの健斗（昭和38年～）
⑨①財団法人化実現（昭和56年）
⑨②「ジャパン・カップ」の創設（昭和57年～）
⑨③「国際スポーツフェア」への参加
⑨④大同×湧永決勝
⑨⑤「蒲生晴明」（昭和48年～59年）
⑨⑥日本リーグに外人選手
⑨⑦5回の天らん試合～国体～

「99」には2項目不足していますが、これは、このあと起こり得るイベントに備えたわけです。

各項目の執筆者、執筆候補者、調査者も、すでにノミネートが終っていますが、太字の項目は資料が整っていません。

どのような内容でも結構ですから、ご存知のかたは、お知らせ下さい。

各地協会史の執筆者

ブロック協会、都道府県協会、全国連盟の歴史編については、日本協会から2月10日付で関係諸機関へ執筆者推せんのお願いをいたしましたが、5月10日現在、次の22団体から届出がありました。（敬称略）。

このあと、当委員会から執筆要項などをお伝えし、今秋12月5日までに、各球史をお送りいただきます。

日本協会の歩みとともに、これらの原稿への期待、興味は深いものがあり、内容豊かな史実が出揃うものと思われます。

〔9ブロック協会〕
・北海道　岡田豊夫、駒林昭之
・東北　由利弘、太田利彦、森恭一

〔46都道府県協会〕
・茨城　大川潤、砂長誠、鈴木均
・群馬　高橋潔
・千葉　宮本西嗣、日根野寛、佐藤幹雄
・東京　渡辺和美、鷲尾武治、飯田信行
・神奈川　三浦公
・山梨　清水正、古屋正
・新潟　渡辺五郎兵衛、山田馨、庭山政幸
・石川　若山博
・福井　竹野秀輝
・静岡　片瀬喜代次
・岐阜　岡田重博
・滋賀　尾本和男
・岡山　猪原昭、大西富男
・広島　丸口哲美、平田幸男、荒谷拓三
・高知　熊沢徹郎、武田末男、川崎秀雄
・熊本　泉浤
・宮崎　坂本平

〔5全国連盟〕
・全日本学連　中沢重夫
・全国高体連　中西敬一、三浦公、伊藤和夫
・全日本自衛隊連　富永劭

「都道府県・全国連盟・ブロック史」は、今回の主要部分を構成するもので、一団体でも欠けると編集の意味がありません。

5月10日の〆切までに、予定の60団体のうち、執筆者の届出率が50パーセントに満たないのは「日本ハンドボール史」刊行そのものの前途に危惧を感じさせます。

未届けの団体関係者のかたは、早急に執筆者をお報せ下さるようお願いします。

次の資料を探してます

現在までに、明きらかに未整備なのが、次のデータです。

前号と重復するものもありますが、一時借用でもかまいません。お持ちのかたは、ご一報下さい。

・昭和40年度までの日本協会役員名簿
・昭和12年から30年までの各種大会プログラム
・特色のあるユニホーム（デザイン、型など）を身につけた写真
・戦前の「日本協会旗」が写っている資料
・昭和13年から昭和40年までの日本協会会計報告書

今月もお願いばかりになりましたが、ご協力を――。

情報、資料の提供は、すべて〒150　東京都渋谷区神南1の1（財）日本ハンドボール協会　記念誌委員会まで。TELは03―四八一―二三六一です。用紙など自由。

告知板

全日本男子アメリカに遠征

全日本男子チームは、7月3日から13日まで、アメリカ西海岸に遠征、アメリカ代表チームと4試合を行なうこととなった。

アメリカは、ロサンゼルス・オリンピックでその地力を見せてくれ、その後ヨーロッパにも遠征、活躍をしている。今回の代表チームの顔ぶれは、ロスの代表7名を中心としたメンバーで、全日本チームが、世界選手権の予選を前にこの遠征でどのような成果をあげてくるか、大いに期待したい。

西ドイツの強豪チーム "エッセン" が来日

西ドイツブンデスリガの強豪チームが7月に来日することが決定した。

日本での予定は、7月26日に名古屋で、28日には京都で、それぞれ全日本男子チームと試合を行なう。ヨーロッパの強豪チームに全日本チームがどのような戦いぶりを見せるか、どうか地元のみなさんは出来るだけ沢山応援に駆けつけて下さい。

◇強化委員会報告

〈男子〉

1 強化合宿

㋑ナショナル　4月28日～5月1日〈大同〉　5月13日～18日〈大同〉

㋺ジュニアナショナル　4月1日～3日〈日体大〉

2 ホンコン大会（6ページ参照）

3 対中国戦（2ページ参照）

4 ナショナルアメリカ遠征（前項参照）

〈女子〉

1 強化合宿

㋑ナショナル　4月16日～22日〈立石〉

㋺ジュニアナショナル　4月8日～14日〈大崎〉　5月26日～6月1日〈境港〉　8月10日～16日〈ジャスコ〉　9月10日～16日〈ジャスコ〉　10月7日～15日〈ジャスコ・大和〉

2 ジュニア女子世界大会　出発・大阪　10月16日～31日・ソウル

3 テラモ・ホンジ大会ジュニア女子　集合7月1日　2日出発10日までテラモ　11日～17日ホンジ　19日帰国

4 チュンチェン大会（4ページ参照）

〈その他〉

1 テラモ大会団長と視察員、審判、アメリカ遠征団長、男子ジュニア世界大会団長について

2 女子ジュニア世界大会と国体について

3 コーチ、トレーニングドクター群会議、4月28日（大同）

4 ソウル・オリンピックに対しての選手養成について

5 女子ナショナルヨーロッパ遠征について

◇競技委員会議事録

○日時　5月10日2時～5時

○場所　岸記念体育館内スポーツマンクラブ

○議題　二巡目以降の国民体育大会ハンドボール競技のあり方について

日本体育協会は、昭和63年第43回国民体育大会（京都）以降の国民体育大会について種々検討が行なわれ、その中で成年の部について1部、2部を設けることがすでに決定されている。

ハンドボール競技としては、この問題について如何に対処するかについて検討の結果「成年男子に2部を設けて5種別を開催する」ことがすでに全国理事長会議、全国理事会、評議員会において決定されている。今回の委員会では、「如何にして成年男子1部、2部を実施するか」について検討を行なった。

○参加資格について

総則による他現行のハンドボール競技参加資格の(3)および(4)を廃し学生の参加を認める。

○出場資格について

成年男子の1部あるいは2部への出場チームの選定は、各都道府県の意向による（過去に少年の部、成年の部に出場したことのある選手も出場することができるが、2部への出場は1回限りとする〈開催基準要項細則〉）。いずれも一般A登録チームでなければならない。

○各種別の出場チーム数について

現行の80チーム、1040名の枠を越えることはできないが、種々検討の結果次のような種別割当数を結論とした。

少年男子　16チーム

少年女子　16チーム

成年男子2部　16チーム

成年男子1部　16チーム

成年女子　22チーム）63年京都大会

※成年男子1部と成年女子は隔年のローテーションとする。

○各種別の出場チーム数の各ブロックへの割当数について

出場チーム数10の種別は、各ブロック1×9ブロック＋開催都道府県1とする。

他の種別については、出場チーム数－（1×9ブロック）＝残余のチーム数。残余のチーム数は各開催年度の当該種別の登録チーム数によって比例配分する。

※登録チーム数は、毎年5月末日現在の数とし、国民体育大会参加のための一時登録は含まないものとする。

また、成年男女の登録数は一般A登録の数による。男女とも学生登録のチーム数は含めない。

※残余チーム数の割当方法

残余のチーム数（種別出場チーム数－10）×当該種別の各ブロックの保有パーセント。

佐賀県協会 20周年記念事業で台湾に遠征

佐賀県ハンドボール協会は、設立20周年記念事業として、成年男子、高校女子の県選抜チーム（団長水田正文会長以下役員9名、選手32名）は、3月25日から29日まで台湾への遠征を行なった。

成績は、男女とも3戦を行ない男子1勝2敗、女子3敗の結果であった。

［成績］

〈成年男子〉

▼第1戦

台北体育専科学校 35（20－13　15－11）24 佐賀選抜

▼第2戦

台中体育専科学校 23（15－5　8－4）9 佐賀選抜

▼第3戦

佐賀選抜 29（14－15　15－13）28 中和市一般選抜

〈高校女子〉

▼第1戦

台北体育専科学校 11（4－4　7－5）9 佐賀選抜

▼第2戦

台中体育専科学校 26（13－7　13－9）16 佐賀選抜

▼第3戦

稲江護理家事職業学校 10（4－4　6－0）4 佐賀選抜

昭和60年度各都道府県協会役員

〔※５月20日までに日本協会に知らされたものです〕

〔青森県〕
○会　長　太田尚充
○理事長　田辺哲彦
○事務局長　碇谷寿明
〒039-35青森市原別遠山13青森東高校内

〔宮城県〕
○会　長　高橋善幸
○理事長　森　恭一
○事務局長　千田文彦
〒980 仙台市子平町3-11　千田方

〔栃木県〕
○会　長　滝沢　武
○理事長　高橋隆夫
○事務局長　滝口孝之
〒326 足利市西宮町2908-1足利工高校内

〔茨城県〕
○会　長　幡谷祐一
○理事長　山内孝雄
○事務局長　鈴木　均
〒312 勝田市大字足崎1458勝田高校内

〔群馬県〕
○会　長　小金沢岩男
○理事長　高橋　潔
○事務局長　高橋　潔
〒371 前橋市南町4-14-20 高橋方

〔東京都〕
○会　長　渡辺和美
○理事長　滝口三郎
○事務局長　浦山洋子
〒141 品川区東五反田2-2-7 大崎電気工業㈱内

〔千葉県〕
○会　長　浮谷貞雄
○理事長　川村　厳
○事務局長　稲生　茂
〒287 佐原市佐原イ2685佐原高校内

〔山梨県〕
○会　長　植野　保
○理事長　清水　正
○事務局長　千野恒夫
〒400 甲府市美咲2-13-44 甲府第一高校内

〔新潟県〕
○会　長　近藤禄郎
○理事長　山田　馨
○事務局長　遠藤　進
〒945 柏崎市北園町19-47 遠藤方

〔富山県〕
○会　長　高田義一
○理事長　金原　至
○事務局長　山口吉弘
〒935 氷見市鞍川1056　有磯高校内

〔石川県〕
○会　長　米谷半平
○理事長　若山　博
○事務局長　大村孝則
〒920-03 金沢市畝田東1-1-1金沢市立工業高校内

〔福井県〕
○会　長　伊藤仁和
○理事長　竹野秀輝
○事務局長　塚崎則男
〒910 福井市御幸2-25-8高志高校内

〔静岡県〕
○会　長　稲森照男
○理事長　久保田龍治
○事務局長　久保田龍治
〒420 静岡市古庄525 静岡農業高校内

〔愛知県〕
○会　長　木下浩次
○理事長　伊藤和夫
○事務局長　村木啓作
〒461 名古屋市東区徳川1-12-1愛知商業高校内

〔三重県〕
○会　長　岡田卓也
○理事長　中根武彦
○事務局長　中根武彦
〒514 津市むつみケ丘津東高校内

〔岐阜県〕
○会　長　浅野　清
○理事長　上妻忠夫
○事務局長　上妻忠夫
〒501-04岐阜県本巣郡北方町朝日町4-50-2 上妻方

〔滋賀県〕
○会　長　尾本和男
○理事長　佃　幸太郎
○事務局長　清水哲哉
〒522 彦根市金亀町4-7 彦根東高校内

〔大阪府〕
○会　長　神田　清
○理事長　望月伸三郎
○事務局長　望月伸三郎
〒580 松原市河合2丁目10-65大阪薬科大学内

〔奈良県〕
○会　長　森田正英
○理事長　阪本祐治
○事務局長　阪本祐治
〒630 奈良市高樋町841　阪本方

〔和歌山県〕
○会　長　世耕政隆
○理事長　尾高義彦
○事務局長　尾高義彦
〒640 和歌山市砂山南３丁目3-94 和歌山商業高校内

〔鳥取県〕
○会　長　栗原三八郎
○理事長　松原紀機
○事務局長　里　和則
〒684 境港市上道町1600境港市役所内

〔岡山県〕
○会　長　永井恒三郎
○理事長　猪原　昭
○事務局長　大西富男
〒700 岡山市伊福町4-3-92岡山工業高校内

〔広島県〕
○会　長　川上正幸
○理事長　平田幸男
○事務局長　久保田　玄
〒730 広島市中区南千田西町8-1 修道中・高校内

〔山口県〕
○会　長　近間忠一
○理事長　槙　敏夫
○事務局長　赤地典高
〒751 下関市後田町４丁目25-1　下関中央工業高校内

〔愛媛県〕
○会　長　梶浦暐一
○理事長　河本武夫
○事務局長　坂井良至
〒791 松山市久万ノ台1485-4松山西高校内

〔高知県〕
○会　長　邑田一郎
○理事長　酒井　満
○事務局長　酒井　満
〒780 高知市塩屋崎１丁目110 土佐高校内

〔福岡県〕
○会　長　関　和虎
○理事長　條崎省吾
○事務局長　和佐野健吾
〒814 福岡市早良区西新3-13-1　西南学院高校内

〔宮崎県〕
○会　長　中村利吉
○理事長　山田龍雄
○事務局長　谷川幸夫
〒880 宮崎市霧島1-2 県健康増進センター内

〔沖縄県〕
○会　長　嘉陽宗隆
○理事長　平仲孝栄
○事務局長　平仲孝栄
〒901-03糸満市字糸満1712糸満高校内

賛助会通信

賛助会の輪をもっと広げよう

――新会員の紹介をお願いします――

ハンドボールはどうして民放テレビに映らないのか？ハンドボール愛好者がいつも口にする言葉です。そうです。ハンドボールが電波に乗るのは、ＮＨＫ教育テレビの全日本総合とスポーツニュースぐらいです。民放の放映には何千万円という金がかかります。そのためのスポンサーがつくかつかないかは視聴率、観客動員次第です。日本協会でも、スポンサーの交渉はしていますが、どちらがにわとりか卵かはともかく、並行してハンドボールの試合を見ていただくファンを多く集めていただくことが大切です。

賛助会の年度は、暫定的に１月から12月までとなっています。賛助会費収入から機関紙増刷及び送料等の経費を控除した残金は、ナショナルチームの強化や普及事業などの財源にあてられています。

選手強化には相当な金がかかるうえ、ロス・オリンピックで痛感されたように若手選手（高校生から中学生まで）の育成強化にはこれまで以上に金がかかります。

また、日本協会は、小学校に対するハンドボールの普及を当面の最大の課題としています（これが頂点強化にもつながります。）それが親子ハンドボールにつながって、ハンドボールの輪はますます大きくなっていく……。

どうか賛助会の皆さんも、そのような輪の核となって、その輪をもっともっと大きくしていって欲しいと思います。お一人が２名、３名の知人を誘っていただければ、会員の数は直ちに数倍になります。

会員の特典として、特別頒価のビデオの製作監修が具体化しつつあります。「賛助会だより」は、当分この「賛助会通信」で代えさせていただきます。いろいろなご意見をお寄せください。

また、賛助会の幹事（パーティーなどの世話役）を募っておりますので、ご希望の方はご連絡をお待ちしています。

〒150 東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育館内
（財）日本ハンドボール協会賛助会
TEL (03) 481-2361（代）

▶60年度会員

◎特別法人会員

東京重機工業㈱、伊藤忠商事㈱、立石電機㈱、本田技研工業㈱鈴鹿製作所、大崎電気工業㈱、本田技研工業㈱熊本製作所、日新製鋼㈱、呉製鉄所、ジャスコ㈱、中村荷役運輸㈱、㈱日立製作所栃木工場、㈱大和銀行、㈱北国銀行、東北ムネカタ㈱、大同特殊鋼㈱、トヨタ自動車㈱、㈱三景、**新日本製鉄㈱**

◎特別個人会員

斎藤英四郎（日本協会・東京都）、荒川清美、武田喜三、大野金一(同)、武内史衛（日本協会公認会計士）、阿部二郎（日本協会・茨城県）、黒田富郎（日本協会・日野市）、村田弘（日本協会・堺市）、柳井文治（日本協会・下松市）、中沢重夫（日本協会・東京都）、幸村稔（名古屋市）、木下浩次（名古屋市）、大西武三（日本協会・茨城県）、金原至（日本協会・氷見市）、三鴨博（立川市）、幡谷祐一（水戸市）、日野博（北九州市）、北川勇喜（日本協会・横浜市）、安藤純光（日本協会・日野市）、滝口三郎（日本協会・東京都）、平井博道（大阪市）、福島富造（富田林市）、富永部（日本協会・水戸市）、田中滋章（日本協会・名古屋市）、木下秀男（佐久市）、北原佐久生（長野県）、油井孝一郎（佐久市）、新津真澄（長野県）、柳沢民弥（日本協会・佐久市）、井田萬三郎（浦和市）、乃村正数（坂出市）、中根武彦（日本協会・亀山市）、藤田八郎（日本協会・熊本市）、入江信太郎（日本協会・茨城県）、滝沢武（栃木市）、山田稔（日本協会・藤井寺市）、岡田卓也（東京都）、高田日呂美（日本協会・東京都）、渡辺慶寿（日本協会・宇都宮市）、岡前義春（日本協会・府中市）、嶋田新太郎（氷見市）、川上整司（日本協会・狭山市）、宇津野年一（名古屋市）、李寿昶（東八代郡）、里和則（日本協会・境港市）、竹内義文（横浜市）、新家谷隆夫（大阪市）、平野恭夫（津島市）、荏畑平男（大阪市）、**近藤金博（日本協会・日野市）**

笑顔があります。涙があります。
躍動があります。記録への挑戦があります。
チームプレイの和があります。
からだを動かしていると
人生の大切なものがたくさん見えてきます。
新日鉄は、スポーツを通し
心身を鍛える皆様に声援をおくります。

新日本製鐵

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二四一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和六十年五月二十五日 印刷
昭和六十年六月一日 発行

東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表（481）二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）